明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
大正十一年八月一日發行（毎月一回一日發行）
女子青年界第十九卷八月號

THE Y.W.C.A. MONTHLY

女子青年界

八月號

野邊地天馬新著

聖書の人々

（對話劇）

（四六判・二八四頁・五號活字假名付・函入美本）

定價　金壹圓五十錢
送料　金十錢

敬虔の心と信仰的態度とを以て聖書中の人物をさながら見るが如くに現はさうと苦心したのが本書であります。輕妙なる筆致と興趣ある技工とは何人にも（少年少女にも）極めて面白く又深刻なる印象を與へるに相違ないと思ひます。

發行所　東京神田區錦町一ノ十二　振替東京壹壹八六七番　日英堂

輕裝しては山水逍遙 靜坐書を讀みては古人を憶ふ

齋藤勇著	シェクスピア	四六判 上製	四百七十五頁 寫眞三葉	定價三・〇〇円 送料・一二	訂正版	本書は、沙翁の生涯の、その作物とを年代順に解説研究せるものにして、海外にも、これほど重寶なるは稀なり。
櫻井鷗村著	ナポレオン物語	菊判 上製	四百六十六頁 寫眞四葉	定價二・五〇 送料・一二	第六版	邦文に成れる那翁傳中、本書の如く痛快、徹底せるものは尠し。
同	リンコーン物語	小形 上製	五百三十四頁 寫眞一葉	定價一・七〇 送料・〇八	十五版	本書は五ヶ年の日子と不斷の努力に成る。リンコーン親しく讀者と對坐して自ら其の一生を物語るの眞實味あり。
松尾孝輔 土屋巴 共譯	哲人エマースン	四六判 上製	四百二十頁 寫眞一葉	定價二・〇〇 送料・一〇	新刊	本書は彼の一子が、その父の面目を傳ふべく、この偉人の日々の活を如實に述べたるものなり。
石黒忠悳序 松尾孝輔著	ナイチンゲール物語	四六判 上製	二百頁 寫眞一葉	定價一・二〇 送料・〇八	第二版	本書は、一面活動期に先つ彼女の準備を説き、他面に謙讓なる、その後半世を述ぶ。
野邊地天馬著	近世偉人物語	四六判 上製	三百七十八頁 寫眞一葉	定價一・七〇 送料・一〇	第六版	十九世紀より現代に亘る歐米偉人二十八名と日本人二名の立身物語なり（青少年へ）
同	ワシントン物語	四六判 上製	三百二十二頁 寫眞一葉	定價二・〇〇 送料・一〇	第二版	服從と眞實を教ふるジョーヂ、ワシントン傳 逸事逸話を交へつゝ其の一生を叙したるものなり（少年へ）
植村正久序 高橋信太郎譯	マルティン ルウテル	四六判 上製	二百二十六頁 地圖と原稿と寫眞三枚	定價一・〇〇 送料・〇六		本書は、獨逸グスターフ・フライタッハの「博士ルウテル」の譯書にして、卷頭ルウテルの寫眞は、ルーカス・クラナッハの筆なり。

發行所 東京市麴町三丁目 振替東京七八四七

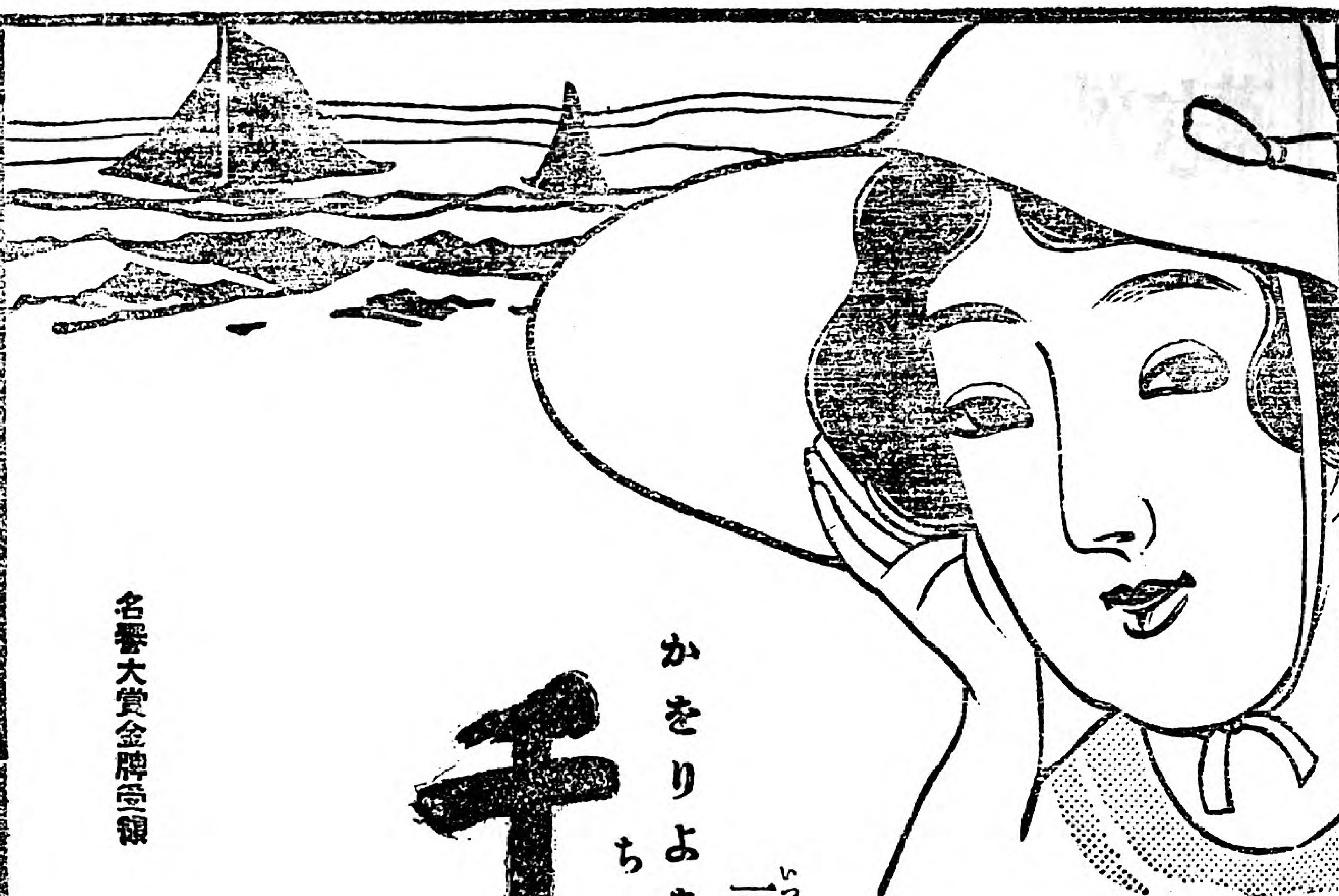
丁未（ていび）出版社 電話九段六六〇

出版書目進呈

第十九卷第八號

女子青年界目次

大正八年十一月號



婦人之友社の三大雜誌

「婦人之友」

每月一回　一日發行

一冊金四十錢　郵税一錢五厘

主幹　羽仁とも子

「まなびの友」

每月一回　一日發行

一冊金廿五錢　郵税一錢

主幹　羽仁もと子

「子供之友」

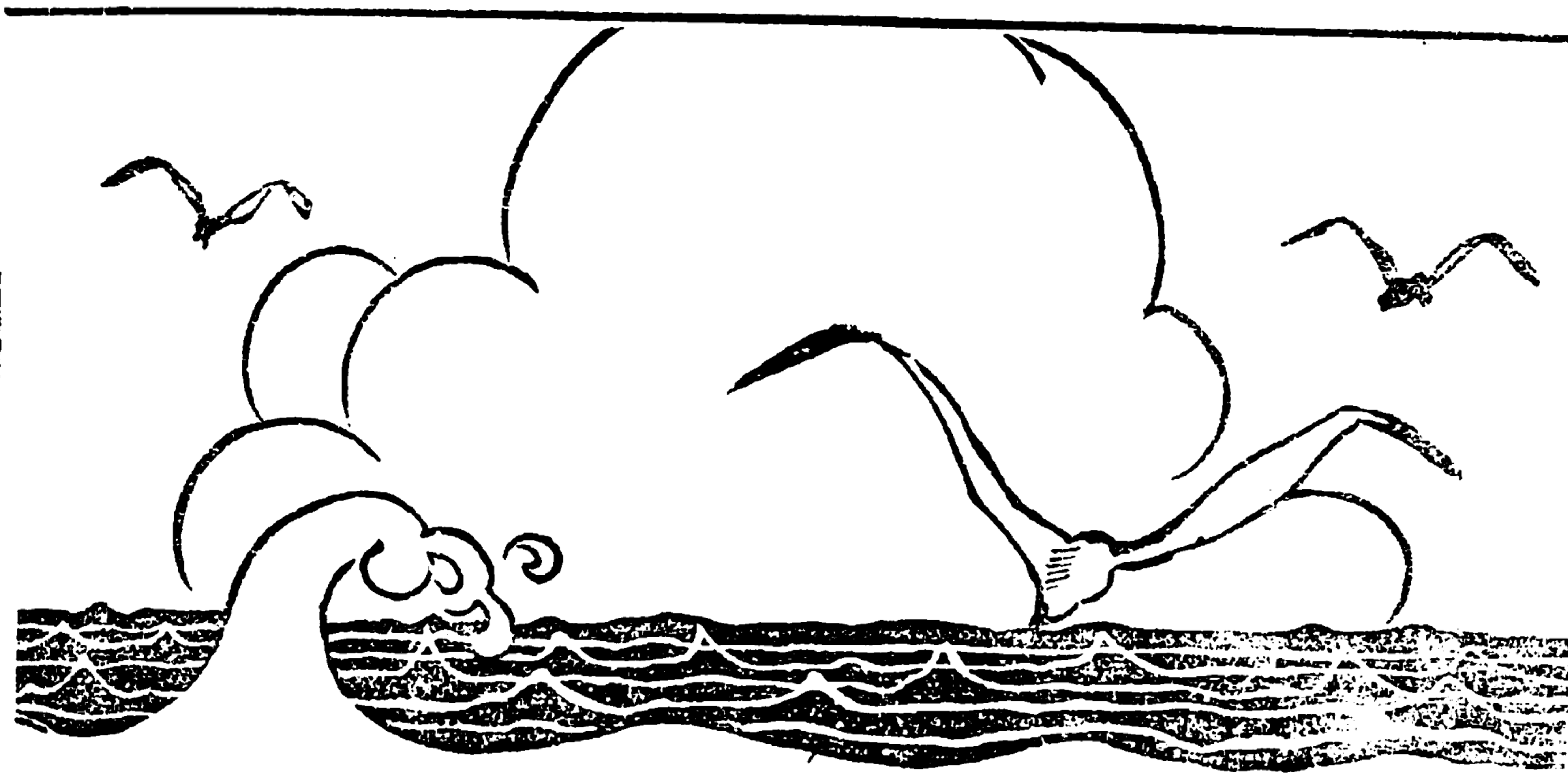
每月一回　一日發行

一冊金廿五錢　郵税五厘

主幹　羽仁もと子

東京雜司ヶ谷　婦人之友社

電話番町三六九八　振替東京一一六〇〇



夏季とクリーニング

（乾式洗淨）

營業項目
クリーニング
リヨン染
西洋洗濯
和服洗張
洗濯石鹼製造
洗濯用品陳列販賣

深緑につゝまれた淸々しい
工場でクリーニングした
洋服の着心地の好さ

工場 中澁谷七九四
七九六番地

東京市芝區西久保櫻川町十番地

白洋舍クリーニング株式會社

電話芝（四五四〇番
六五五四番
八六八一番

支店
大阪高麗橋
名古屋伏見町

女子青年界 第十九巻第八號 大正十一年八月一日發行

會説

一つとなる精神

河井道子

今年の修養會は其標語即ち「我らはみなキリストエスにありて一つなり」の眞意を幾分かは實現したやらな思ひがあります、この言葉は意味深重で崇高なる向上をあらはして居りますから短日月でその全部を味ひ又實行し得べきものではありません、けれどその遠大なる目的に對し私共は幾分かの階段を上り得た感がございます。

一體仲善く一緒に事をするといふことは容易なわざでありません、やさしいやうでむづかしいのはこれであります、幼兒達を一諸におくと無我のうちに玩具を取りあひして泣いたり、幼稚園の兒童が先生の善き訓練を經てゝなければ仲善く遊べなかつたり兄弟同志が親しいうちに自然に喧嘩をしたり、學校内で友人同志が友情を以て和合することのむづかしいことや、泰平の時に於て擧國一致などは至難であることは誰しも認めて居ることであります、況して國際的平和主義に一致することなどは至難中の至難としたものでありますが然し昨今それさへも實現せしめやうとするのが世界的勇士義士の努力であります。そのいづれの塲合を問はず眞の和合が出來るといふのはキリスト中心に依つてはじめて完成するといふのがポーロの主張で代々の

信徒等が叫びつゝ其理想に向つて努力したわけであります。古來支那に於ては一視同仁、四海兄弟といふ立派な教訓があり日本も其精神を養ひつゝ來たのでありますが正直なところ基督教の主張するやうに神と人との關係を土臺とし賢者愚者男女老若貧富貴賤の區別なく眞に一つであるといふこの精神には到底及ぶものがありますまい、好きな者同志が集るとか趣味を同じくするとか、或ひは同じ學校に會社に職業に從事するからといつて一致和合の出來る場合はありませうけれど人種階級の差別を廢して互ひの福祉をもとゝし最上の人格を完成せんと努力するために一致協力しやうとするのは容易なわざでありませんそれには精一パイの奮闘努力の上に互の勞を負ふといふ或は代償的即ち人の爲に苦勞するといふ献身の道筋を辿らずには出來るものではありません、故に一家の平和一國の平和世界の平和を來らせんが爲め幾多の苦痛を忍び殉敎者の生涯をする者があるかわかりません、之を宗教の立場から見れば神と人とを和睦させんが爲キリストが十字架の死を甘受せられたことになります、犧牲なくして平和來らず苦痛なくして喜樂が來るものではないといふことはたしかであります、この點を考へるやうに今回の修養會は指導されました。

かゝる深遠なる理想を一朝一夕に實現することは不可能のことでありますが然し修養會に出席せられた諸姉がそれに向つて歩を進められたといふことは左の事實に徵しても明かでございませう。

一、設備の不充分で狹い一室に五六人の鮨詰となつたその場合誰一人つぶやく方がなく忍びあひ助けあひして一週間をおくりしこと、

二、出席者は諸學校諸會社よりの代表者でありましたが競爭的の又排他的の容子が少しもなく神の子供として姉妹達として過されしこと、

三、諸集會や諸先生方の善き點にのみ注目して眞に精神修養につとめられしこと、

四、遊戯競技親睦會等には嘻々として相扶け精遊の實をあげんと努力されしこと、

五、食卓及掃除等の手傳を快くされしこと、

以上は顯著の點でその他のものに於ては批評的でなく互に長所を貴び不自由を口にせずなるべく笑顏をもつて他に接し、病人のある場合進んで看護の勞にあたり、寂しさうな人には他より依賴されないうちに喜んで彼等を慰められた姉妹方の非常に多かつたことは私共の目にとまつたことであります、これがもし他の會合の場合であるならば決してかゝる協力しかも愉快なる協力は出來ないと思はれます、かゝることは決して些細のことではありませんこのやうな小さな階段を踏まなければ大きな和合に至ることは出來ないと存じます

最期に信仰に於て神に近づかんとした姉妹方の多かつたことは四人の聖書の組の講師方が暇なきまでに質問者と會合されたことでわかります、又青年會を愛する其心のあらはれとしては代表者一同が修養會の建築に對しての熱心さであります、一日僅かの時間に有志者が集つて其相談をいたしました時に寄附豫約の金額のみにても千圓を超え、來年までには十萬圓をこの修養會の爲に得んといふ意氣込でありましたがこれも信仰より湧き出た奉仕のあらはれと思ひます、かくて私共は感謝のうちに閉會いたしました、來る一ヶ年間に於て今年の標語の階段を尙高くのぼり又一生を通じてその絶頂にまで達したいものであります。

「柔和を求むる者は幸なり、天國は其人のものなればなり」

禮拜說敎

生命なる基督

金井爲一郎

「神はその生み給へる一人子を世に遣し我等をして彼によりて命を得しむ。」

エスがこの地上を去らふとし給ふ前夜弟子達に云ひ給ふた言に「我汝を孤兒とせず。」「我生くれば汝等も生きん。」と仰せられた。又先の聖句には「神はその一人子を世に遣し汝等に命を得しむ」とある。キリスト敎は倫理的社會的世界的宗敎であるがその根本は人に眞の命を與ふと云ふ事であつて。エスキリストがこの世に與へた最大のものは亡びんとする生命を新にし死にし靈を生き返らせると云ふ點に存在す。しかるに若し我等がこの一つを失ふならば他のすべてを滿されたにせよキリスト敎の眞意を把へたとは云はれない。此處に「我生くれば汝等も生きん」とある樣に「汝等」と云ふ複數を用いてある。又主の祈りに於ても「我等の父よ。」「我等の罪を許し給へ」とある。この精神を廣めて行くと神の御前に立つ時には人は只一個人としてゞなく連帶の姿に於てゞある事を敎える。

それはやがて神の國となり敎會となる。實に人の世は相互の助けなくして生活出來るものではないことは明かな事實である。祖先傳來の感化や、親の努力或は失敗、勝利、苦痛、悲しみ等の影響が及んで一個の人格が出來上る。ポーロは『神は全世界を一つの血より造りそれを全地に住ませ給ふた』と敎へてゐる。一つの血族から成立してゐる事を強く敎へてゐる。其如く私共の現存すると云ふ事は多くの人に影響する。一個の人の正しくなることは世界のはて迄及ぶ問題である。私共は知らないでゐるが數千年

前に居た人の潔かつたか否かと今の私共の生活に迄非常に影響してゐる況んや近い人々の間に於てをやである。エジプト王パロの罪は今の國家に影響し。アブラハム一人のうるはしい信仰は實に世界の端迄及んでゐる。

我々は全世界に於て唯一の個性を有す。個人は單獨に生きる事は出來ない。男は女に依らなければ生活出來ず、社會は男子なしには成立出來ない。人類の中に罪を犯すものがあり神に反く者のある事は單に彼のみの罪ではなくして、人類全體の連帶責任である事を忘れてはいけない。男子が罪を犯すならば女子もその責を負ふべきであり、女子が罪を犯す事があつたら男子にもその責任はあるのである。我等は互に助け合はなければ成長出來ないのである。各々が與へられて行く事によつてのみ世界は成長する一人の正しきによりて全世界は潔くせられるのである。世界は確に罪の巷である。多くの人の罪は我等の胸に動く罪の一つである。新聞の中にあらはれて來る罪惡は又我等の心に暗い影を投げる罪の觀念と共通なものがある事を覺えてゐなければならない。その根を深く掘り下げて行く時それは神への反逆である。罪と云ふ言葉の原語の意味は『目的を失ふ』と云ふ事から起つてゐる。人類の目的をある目標に達せんとして未開の時から進んで來たものとすれば罪は方向を誤つた事であり。神と合體して人格を完成するのが目的であると見れば罪は神を敵とする事である。

廣い海を乘り越えて或る點に達せんとして港を出た船が目標を失つて浮きつ沈みつ濤にたゞよう有樣が人生だとも云へやう。吾等は皆生きてゐる。しかし聖書には罪を犯した者は靈的に死んだと云つて居る。不治の病に罹つて醫者が匙を投げた時その人は生きてゐても或る意味からすれば死んだのである。かくの如く人類が神に對する態度をあやまつて進んだ時に「人の子は死ねり」。「義人なし。一人だになし」。「善をなす者なし。一人だにあるなし」と云

給ふた。それは厭世的な人生觀の樣ではあるが事實である。私共の一番正しいと思ふ孔子とか釋迦、ソクラテスの精神狀態をさぐつて見るに、彼等の心の中にも罪の惱みがある。全き善を求めて如何しても達する事の出來ない惱み、又其反對に行く傾向がありよこしまな性情が働くのである。私共は斯かる人間の社會に生れ、こゝに育ち、艱難しつゝ生きて行く。神は之を見給ふて、「人の子は死せり」と仰せ給ふのである。そのまゝにしておくならば人類は滅亡である。然し乍ら神は、この世界に對して「彼等亡びたれど我之を救はん」と宣ふた。イザヤ書五十九章十四節「公平は後に退けられ正義ははるかに立てり、そは眞實はたほれ、正直は入ることを得ざればなり。」とあるこの樣な狀態であつた。「エホバは人なきを見、中保者なきをあやしみ給へり。」間違つた關係を正し得る人は何處にもなかつたのである。こゝに於て神は自らの臂を以つてあたり給ふたとある。廿節に「エホバのたまはく贖ふ者シオンに來りヤコブの中の愆をはなるゝものにつかん」と即ちクリストは世に出で給ふたのである。「我等神を愛せしにあらず神先づ我等を愛し給ふて人の子としてキリスト與へたのである。

人は神を待ち望んだであらふか。歴史を考へてみるに人類は決して神を望むよりも反逆し神を苦しませた。初めに神は民族を選び豫言者をして敎へ導いたが人々は聞かなかつた。又多くの苦しみと試練とを以つて人類を戒めたが聞かなかつた。

こゝに於て神は人類に失望し給ふたかと云ふに決してさうではなく、イエスはこの世の生活に入り給ふたのである。然るに或る人々は云ふ「クリスト一人が十字架にかゝつた事によつて人類が救はれると云ふ樣な事は倫理的に不合理な事ではないかと。彼の義によつて人類が何等正しきことなくして救はれる筈はないそれは道德的ではない」と。其說は一應理由ある言葉の樣に聞える。法律上から云へばさうである。然し更に深く考へて見ると確にその愛の世

界が在る、此處に入ると他の法則が支配して居る事を發見する、罪なる者の爲に義人が苦しみ、惡人の爲に善人が苦しむ。若し私共の家族に一人の病める者があるなら親は自己の命を短くしてゞも救ひ度いと願はないだらふか。私の教會の長老の方がその幼兒を失はふとした時、私の命を召して子供を救ひ給へと御願した。それは眞に親の心である。

モーゼは罪人の爲に代らうと祈つた。或る聖者は同胞を救ひ給へしからずば我が命をもとり給へと祈つた。

ポーロは骨肉の爲なら代つてキリストから離れてもよいと云つてゐる。法律の世界以上愛の世界の業はより高い深いものである。説明の爲に一例を引きたい。私の郷里の家の裏に池があり、それは深く且つ廣かつた。弟が四五歳の時そこに遊んでゐたが誤つて突然その中に陷つた。丁度父が二階にゐたが、梯子段はその反對の側に可成りへだゝつてゐた。危機一髮の時父は二階から飛び降りて池にとびこんで之を助けた。其時父は足を傷けたが滿足と喜びを以つて抱き上げそこに何とも云はれない感謝が一杯であつた之は愛の世界にある事實である。愛は道徳以上のものである。お前は行くなと云つた處に行つたのだから當然だ其報は受けねばならぬと云ふて池におちた時どうして親がだまつてそれを見てゐられやふか、愛は法律以上のものである。

今神の言葉と光に照されて見ると人は計る事の出來ない暗黑に向つて知らず知らず進みつゝある。浮き上る事の出來ない深淵が人を呑まふとしてゐる。人は盲目の樣にそこに進んで行つてゐる。神は之を見て勝手にお前が行つたのだ當然の暗黑に陷つたのだと云つて高くから冷かに見て居られるだらうか、否。「汝ら惡しき者ながら、善きものを其子に與ふる事を知る況て天に在ます汝らの父は」とキリストは云ひ給ふた。人の親に比べると限りなく善なる神、罪に亡び行く人の子に何事をか爲し給ふに相違ない。實に神は親らを人に與へ給ふた。神は人の子こし

て世界に來たらばどうなるかと云ふ事は知らなかつたのではない。苦しめられ十字架につけられ殺される事を知つてゐ給ふた。然し愛の故に止むに止まれぬ御心からイエス人の子としてこの世に現はれ給ふたのである。かくして前に述べた人類相結ぶ世界へ連帶の責任の中に、人の一人としてキリストは來り給ふた。彼は平民の子として生れ人に觸れる生活を營み家庭の重荷を負ひ人の惱みを見、自分を誘惑の中に置いて生活し給ふた。エスの觸れない人間の世界はなかつた。人から見捨られ憐れな狀態にあつてもエスの同情はそこ迄達する事が出來た。神に呪はれたものとして人に嫌はれた癩病人もエスは手をつけて「我が心にかなへり潔くなれ」と仰せられた。捨てられたいやしい女も日陰者もエスの愛はこれらの人々に迄とゞく事が出來た。しかしイエスは人々に嫌はれ給ふた。何故なら世の人々はこの義人を容れる事が出來なかつたから。彼は同鄉の人に捨てられ、エルサレムの人にねたまれ、ムチ打たれ、つばきせられ、裏切られ十字架の上にくぎづけられて死に給ふた。

キリストは、人類の罪と己とを一つにして、自らの者の如く苦しまれた。故に彼を罵り捨てた人類の爲に尙くぎづけられた御手を擴げて父よ彼等を許し給へと祈り給ふたのである。人類はその罪の故に潔き彼を受け入れなかつたが彼はなほみ手を以つて私共を抱擁し給ふのである。

潔い友を持つと云ふ事は私共の寶であり智慧ある人を友とする事は私共の祝福である。エスキリストがこの世に來り給ふた事は實に人類に友が與へられたのである。彼は私共の拒む時も尙與へ給ふのである。受け入れる前から已に愛を以つてかこみ給ふ。彼は完全な義を以つて不義とに勝ち、汚れなき愛を以つて憎しみに勝ち、信仰を以つて不信と戰ひ之を征服し給ふた。あらゆる人類の罪は大潮の如く彼におしよせて來た時最大なる善と愛とを以つて之にむかひ十字架上に於て決定的の勝利を得て「事なれり」

と叫ばれた。このキリストの勝利も實に私共の勝利である。エスの祈り給ふた樣に「父よこは一つにならんが爲なり」と云ふことを考へなければならない。私共はこれを他人の得た勝利と考へてゐてはならない。彼の意識の中には世界の罪に代るといふ意識があつた。「彼等を許し給へ」と祈る時他人ではなく我がものとして罪人の爲に祈られたのである。ユダの罪もペテロの反逆もピラトの不正も又私共の中にある罪もキリストは人類のすべての罪を我がものとして十字架の上に死に給ふた。神秘の死の境を越えて彼は人間の最も恐れる死の世界に進んで行つて罪とけがれなき彼は死の門を打破り給ふたのである。

視よ復活の日の夕甦り給ふて弟子にあらはれて語り給ふた。

「平和汝等にあれ」と釘付けれたあとのあるみ手を延べて告げ給ふたのである。私共は此キリストを信じ救主として彼を信ずる時、死より命に入るのである。「我生くれば汝等も生きん」と仰せられた。故に信徒の生命は只キリストの中に在る。生きた彼と連る時、彼を信ずる時一躍して孔子も孟子もソクラテスも達する事の出來なかつた世界に達するのである。只與へられるものを受け入れゝばよいのである。

ポーロのことばに、「汝等はキリストと共に甦りて天の處に座せしめられた」とある。我等は自分の足りない事を嘆くが私共の魂を捕へてゐるキリストは榮光の御座に昇つてゐる事は已に事實なのである。最早や誰も之をうばうことは出來ない。又何者も彼の中に在る生命を奪ひ得る者はない。之より後信者の生命も力もキリストの中に在る。

ステパノはイエスの爲に殉教した。其光景を見ると、彼は雨の如く降り來る石に打たれて血にそみ打ち碎かれつゝ死ぬ時に「見よ天開けて神の右に人の子の立てるを見る」と云ひ後「主イエスよ我が靈を受け給へ」と祈り最後に「主よ此罪を彼等に負はしめ給ふ勿れ」と叫んで斃れて居る。

「天開けた」とは大空が分れた事ではない新らしい

靈界の光りが來つて彼の靈眼を啓いた時に彼に對する愛と熱心を以つて死なんとする彼に力づけ迎えんとして、イエスの立給ふ事を認識し意識したのである。「たほさるれど亡びず」とポーロは絶叫した。私共のすべての行動、すべての事業、すべての生活はキリストから來る時に地上の失敗も天上の勝利となる。又凡ての業の動機が此處から來なければならない。エスの否定し給ふ事はどんな事もそれ切りなのである。萬民に反對されてもイエスのよしとし給ふ事は眞に善なのである。キリストの可能に生きなければならない。「善且つ忠なる僕よ」此處に萬事は償はれて餘がある。

姉妹方が有爲な前途の生涯に於てすべての行爲とすべての生活がことごとくエスの爲に、私共に命を與へたエスの生活でなければならない。こゝにゐる二百名の方々がエスの爲に生きるなら幾多の月日の後どれだけの幸を世に與へ多くの靈を神に導き、善き感化を與へるであらうか。此處からのみ眞の力は生れるのである、私は此處に來てどうかして神の娘等に此眞理を傳へようと思つた時に自らの無力と其責任の大なる事とを感ぜざるを得なかつた。若し貴女方が、己を與へ給ふたキリストに身を捧げるならば世の中にどれ程影響を與へるかを思つた時に限りなき神の愛と其啓示された事實を指しつゝ、姉妹等の前に只頭をさげてキリストの爲に捧げて頂き度いと願はふと思つて來たのである。此招きに應ずるならば其人の今後の生活の光榮とエスの祝福を思ふのである。

之は滅びより命に到る唯一の道と信ずるが故にどんな榮よりも眞實にエスキリストにすべて捧げやふと願ふのである。全身全靈をエスのものとせよ。全生活を主のものとせよ。神は其人に全世界と共に永遠の生命を與へるであらう。一切を神の者とせよ君は其人の爲に一切となり給ふであらう。

（一一、七、一六日）

平凡者の時代と其指導者

渡邊善太

然ば我儕に雲霄を通りて昇りし大なる祭司の長すなはち神の子イエスあり故に我儕信ずる所の教を固く持つべし。蓋われらが荏弱を體恤こと能はざる祭司の長は我儕に非ず彼は凡の事に我儕の如く誘はれたれど罪を犯さゞりき。是故に我儕恤をうけ機に合ふ助となる恩惠を受けん爲に憚らずして恩寵の名に出るべし……。

ヘブライ書四ノ十四―五ノ十

今日の時代は凡ゆる幻の消える時代である。此の前兆とも言はふか、中世紀の終、近世の幕が切り落されてから人間の自惚れといふものが打破かれた。コペルニクスの地動説出で、ガリレオ其他の人によつて是れが確證されるや、宇宙のあらゆるものは地球を中心として造られたと思ひ上つて居たものが地球は太陽系中の一遊星に過ぎぬ事を見せられた。次にダーウヰンによつて「種の起原」唱へらるゝや、生物進化論が(これより以前此説は既に有したるも)凡ての素人に傳へられた。而して其考は如何影響を來したか? 曰く、我々は從來萬物の靈長と考へられて居たが、實は人間は猿から進化したものと教へらるゝに至り、人間中心的の自然觀が見事に破はされた悲しい實驗をした。科學の進歩と共に、科學のメスによつて神秘の世界が破はされて來た。アルケミーがケミストリーになり、アストロジーがアストロノミーになつた。

「敷島の大和心を人問はゞ旭に匂ふ山櫻花」と歌はれたものは植物の生殖機關だと教へられ、「月見れば千々に物こそ悲しけれ我身一つの秋にあらねど」と月を見て詩的になりて居た物が、天文學に依て月はたゞ死んだ土の一塊が僅かに太陽の光によつて輝を保つてるものと言ふ風に凡の物が破られて、英勇豪

傑がだん〳〵となくなつて來た。ウヰルソンは斃され聯盟は成就しなかつた。今日の世に價値のあるものは數である、量であると言ふことになつた。かくなると生活の中に清新さ(フレツシユ)がなくなる。而して眞に我平凡にきたり」との感起り、現實暴露の悲哀と言ふ語が流行語となるに到つた。ニーチエは曰く「惡魔と統計學者とより外には注意せられない現代の平凡者の群と」。然し此平凡者の時代には何等の意義もないであらふか？　其時代を各々の理想を以て通譯する責任があり義務がある。見るべき眼で見れば如何ものゝ中にも大なる意義が發見される。例へば賀川君の涙の二等分といふ詩集を見ても汚ない、むさくるしい貧民窟に詩のある事が解る。

此平凡の時代には三つの深い意味がある樣に思はれる。今日の吾人平凡者は偉大な抽(ぬきん)でた者でない。然し深く生きて行くといふのが近代の平凡者の特徴である。深く省み、深く生る。其處に大なる爭鬪が見えて來る。是は古くして新しき靈肉の爭鬪である。こゝには新しい理想我と舊い自我との爭、刹那の我と永遠の我との爭がある。彼のエジプトのスフインクスは五六年前の人間の此惱みを表象して居る。即人面獸身は人性の二面を寫して居る。靈と肉、理想と現實の二面である。是に對して古來人間は二の相反する解決を提出して居る。中世紀に於ては吾々人間は精神に生きる事を高調した。フランシスの精進サボナロラの禁欲等は皆それである。人間からあらゆる歡樂を取骨丈殘る馬車馬の如きものにせんとした。彼等は人間から天使を造らんとした。或人の如きは釘を入れて織り込んだ短衣を着て肉の思ひの起る時肌を刺し肉を殺して靈のみを生かさんとした。然し是は人間の性質に反する事である遂に成就しなかつた。其結果は婦人の修道院から男子の修道院にトンネルが掘られる位が落となつた。

第二に近代になつて此中世紀的の解決と正反對に靈を否定して肉にのみ生き樣とする努力が起つた。即ち自然科學などの發達の結果自然主義起り甚しき

は「人は其食ふ所のものなり」とさへ言はるゝに至つた。私は信者となつて後極めて保守的な團體に育ち爲に小說類を讀まなかつたが、友のすゝめにより自然主義文學に觸れた時其所に自分の赤裸の姿が現し出されて居るのを見た。切實である性慾を如何せんありのまゝを如何せんとの感が強くなつた。而し同時に是は一面の姿で私の全生活(ホール)でない事を感じた自然主義は人間から動物を作らんとした。中世紀に於ては人間から天使を作らんとした。

然し今日は前者でもなく後者丈でもなく、靈肉一如の調和ある世界を求めるに到つた即人間から人間を造り出し度いとの望が燃えて來たのである。近代人は凡ゆる學問の御蔭で、人間は決して靈肉と二つの明らかなる部分に分けられるものでなく、靈は肉であり、肉は靈であり、其渾然たる統一に由て眞の「我」が育くまれる、と敎へられた。かく見れば中世紀人の苦しみは、眞の人間の生まれ出る爲であつた。彼の北歐のイブセンは婦人問題丈でなく、實に靈肉一如の第三帝國の爲に示した先驅者である。

靈肉合一の要求は新約書中に含まれた新しいキリスト觀を發見さした。「彼は凡の事に我等の如く誘はれたれど罪を犯さゞりき」。(ヘブライ四章十四節)或者は神とのみ思ひ或者は人間とのみ思つた基督は、靈肉を具へ、然も二者を合一させて生活した。人間であつた。彼の敎の中に「女を見て色情を起す者は云々」と言ふ事があるのは、彼が眞の人間で、性の問題を知り給ふた事の證據である。基督は靈肉一如の生活の方であつた。實に此望が夢でないといふ一大希望を我等の中に起し給ふた。又「彼子たれども受る所の苦難に由て順ふことを效ひ既に完全ければ凡て彼に順ふ者の永遠救(かぎりなき)の原(もと)となれり」(五〇七、八、九)。あらゆる誘惑を感じ是に勝給ふた故に彼によりて明に成就された大なる者を見得るのである。

第二は現代の平凡人の特徴は憧憬に於て高く生くる事である。現代ほど平凡者の間にアスピレーションが高くなつて來た時はない。昔は出來上つた者完

成したるものを偉いと思つたが、近代は世界さえも完全でない、物皆は成就されず(in the making)作られつゝある狀態であるといふ事が知られて來た。出來上つた聖徒も尊いが、同時に聖徒とならんとする願望に生きる人も貴い偉いといふ事が教へられて來た。昔の人は足を地から離して中空に立たんとしたが、現代人は石を積み其上に起んとするのである。而してあへぐ者、饑え渴く者の中に價値を見出した。是に依て吾人は新約書中に含まれた救極の教の一新生面を發見した。即ち救は「心の貧しき者」「哀む者」「慕ふ者」(マタイ五〇三－六)或は九十九の義人より一人の罪人の上に與へられることが解つて來た。「人はある所のものによつて計らるるものにあらず、彼のあらんと欲する願望によつて計らるべきものなり」といふゴルドン博士の言は此意味に於て眞である。フランシスの如く小鳥に說教は出來ぬが吾々は靈肉一如になり度いとの憧憬に生きる事が貴い事となる。教の生活は高きを憧かるゝにある。人の小さい缺點で人を審かず其人の Aspiration 高い憧憬で審き度い。牧師の日常生活が不完全の爲によい說教をしても彼の牧師は駄目だと非難する人があるが、然し、其講壇上のよき說教を彼の在らんと願ふ憧憬と觀ることは出來ないであらふか。イザヤ五十七ノ十五に「至高く至上なる永遠にすめるもの聖者となづくるもの如此いひたまふ我は高き所きよき所にすみ亦こゝろ碎けて謙る者と共にすみ謙だるものゝ靈をいかし碎けたるものゝ心をいかす」とあるが是は神が出來上つて聖徒と共在し給ふと同時に聖徒たらんとする願望に生くる者とも共に在し給ふを教へたものである。不斷に此憧れを持ち續けやうとする而して瞬間的の成就よりも連續的の憧憬を尊しとする。吾人の努力は其憧憬を如何にして强からしめんかといふ處に費され、而して其强き憧憬に由つて眞に吾人自身を索引せしめ樣とする。同時に他人を見ても個々の弱點と缺點とにて彼の價値を定めず全體としての彼に現はるゝ(啻に所謂行爲のみならず)憧憬に由つ

て粹らうとする。斯くして吾々は從來人間の軛となつた戒律主義から救はれる事が出來る憧憬に由つて神を捕へよ、憧憬によつて救拯を得よ。

現代の平凡者の第三の特徴は、出來得る丈け廣く生き、最大多數と共に生きやうとする點にある。

吾々の祖父等は凡ての人間を仕事の種類に由り、其量に由り人を區別した。故に其處には、征服者と被征服者、踏臺にする人と踏臺になる人と二種の對立があつた。然るに前述の近來に於ける機械文明の發達は、凡ての優れたものを平にして、世界を水平――レベル●ダウン――にした。此は一面に凡ゆるものを平凡化したといふ惡い事もしたが、他面に平凡者各自の眼を開いて、あらためて自己と共周圍とを眺させる樣になつた。周圍を眺める事に由つて、隣人の人格の尊さを見出し、「共存」の眞理が味はれる。自己を見る事に由つて、自己の眞の特徴を發見し、「自尊」の眞義を見出した。即ちインデペンデンスとインタデペンデンスと矛盾なく相並ぶ樣になつた。

此處で特に考へ度いのは、共存の一大條件としての各個人の特徴の自覺である。一寸考へると特徴を自覺して、自尊心が强くなれば共存の理想を破壞する樣に見えるが、よく考へると、眞の自尊の在る處にのみ眞の共存があり得るといふ事が解る。自尊心がなくて、隣人が自分と全く同じ事をする、と思はれる處に安價な競爭と、强い嫉妬とが生れてくる。それが爲に共存の理想は其實現を阻げられる。然し各個人が眞に自己の特徴を認め、自己の步む道の獨自なる事を發見する時に、彼我の衝突がなくなり、互に尊敬しあひ、互に手を握つて道を行く事が出來る。

從來とても共存の理想は無論あつたが、唯其實現の條件としての自尊が、各平凡者の間にゆき亘つてゐなかつた。だからそれは、征服者のみの共存であり、英雄のみの共存であつた。然し近代人の個性に對する覺醒は此自尊心を平凡者の間に行き亘らせた。人間の歷史あつて以來、今日程各人が個性に目醒めた時代はあるまい。大小に拘はらず自己の衷に

ある特殊のものを認めて來た。此際思ひ起すのは希伯來の智慧文學者の遺して與れた「ヱホバは凡てのものを各其用のために造り給ふた」といふ言である。(箴言十六〇四)。即ち如何なるものでも世界にあるものは、凡て其獨特の目的の爲に造られた。無用のもの無意義なものは存在しない。近代的に言へば凡ゆるものに「使命」があるといふのである。

從來の宗敎では平凡者に對して「人は何處から生れたか」及び「人は何處に行くか」といふ二問題を考へさせたが、「人は何の爲に造られたか」といふ問題を考へさせなかつた。吾人の特徴は此三問を考へる様になつた事である。吾々の生涯に於て一度は此問題を考へる時が來る。

イスラエルの最初の王となつたサウルの例は之をよく説明する。青年サウルは失はれた父の驢馬を探ねて三日間さまようた後、豫言者サムエルに其在り所を訊ねた。其時サムエルは「三日前に失はれた驢馬は既に見つかりそれに心を勞するな、お前のまへにはイスラエルの迷へる人々を統一すべき王たるの使命がある」と云ふた(サムエル前九〇廿)。即ち驢馬を求めて王位を發見した。吾々も名譽、地位、黄金といふ驢馬を求めてゐる間に周圍に無自覺にさまようて居る同胞の指導者たれといふ細い囁を耳に聞く時が來る。此使命に答へる事に由つて自尊と共存とが一致する。

吾々の生涯は此囁に對する對度の如何に由つて決定せられる。モーゼは神の山でこれをきいて、埃及の凡ての榮華よりも、神の民と共に苦む事をよしとして之に從ひ、パウロはダマスコの門前で遜つて「主を我に何をなさしめんとしたまふや」と云ふた(使徒行傳四〇六)。此修養會に集つた吾々凡ては此問題に對してもう一度考へて、確實なる使命の自覺を以て、吾々の前に横はる人生の第一歩に踏み出したい。

近代の平凡人は深く生きて、靈肉合一の境を求めてゐる。高く生きて憧憬の價値を知つて居る。而して廣く生きて最大多數と共に生きん事を希つてゐる。而してこれを事實に現すものは確實なる使命の自覺に立つて、自覺せざる隣人を其自覺に迄連れ來る事である。(修養講演)

基督者の立場から観た西田天香氏の宗教思想に就て

村岸清彦

何時の時代にも必ず一つ乃至二つの流行心理と云ふものが働いて、時人を捕へなければ止まない。而して最近この流行心理に現はれてゐるものゝ一つは西田天香氏の宗教思想であると言へやう。

私は流行心理の善し悪しは別として西田氏の眞摯な生活態度やその敬虔な宗教思想に對しては、少なからぬ敬意を感じて居る者であり、且同氏の突き止めた態度や眞劍な考方に較べて、餘りに生温るい不徹底な我等基督者の態度や考へを衷心恥ずる者である。慥かに私は同氏から、強い刺戟と感激とを享けた事、従て私の心が可成強い尊敬を同氏に對して感じてゐる事を認めずには居られない。

然し尊敬と言ふ事は、必ずしも「全體の肯定」を意味するものではない。敵や反對派に對してすら、尚尊敬の心持は持ち得るものでなくてはならぬ。私は西川氏を尊敬するが故に、氏の全部までも肯定せねばならぬと云ふ理由を知らない。氏に對する私の尊敬の心理には、猶「批評」の這入り得る餘地が十分に在るのである。恰かも西田氏の高弟である倉田氏が、師西田氏に對して無遠慮な高等批評をして居られるが如きものである。殊に私が、基督者としての立場や考へ方からすれば、同氏に對して言はせて欲しい點は決して尠くない。仍で絶對に西田氏の德を傷ける意味からでなく(尊敬してゐるのだから、無論

左樣な心持は在り得ないが）唯眞理のために、私の觀察を述べさして貰はうと思ふ。

先づ私は、西田氏の財産所有權の否定てふ態度に疑念を抱くものである。尤もこれは同氏が二十代に北海道で開墾事業をやつた時分、勞資協調の具體的解決に關して泌々と困難を感じてから思ひ付かれた解釋であつて、氏としては之れ以外に辿る可き道はなかつたのであらう。然しされぱとて、斯くした生活態度を以て直ちに現代經濟組織の改造に臨まうとするのは、何うであらう。言ふ迄もなく、極端に誤つた資本主義的經濟組織に對しては、それは一個の皮肉な刺戟であり、清涼劑ではあり得るが、併しそれが直ちに現在の經濟組織を改善する動力とならうとは考へられない。何故なれば私は本當の改善なり改造なりは、「現在の全的否定」より生ずるものでなく、「現在の根抵を肯定」し、これに新精神と新意義とを附與する事から來るものでなければならぬと思ふからである。

基督敎の立場からすれば、正しい資本の運用を是認し、聖められた所有權を肯定して一向差閊はない私は所有慾と言ふものを、西田氏の樣に直ちに罪惡の根本だと云ふ風には考へない。只意志が「所有物」を正しく所有し、「資本」を活して使用しない時に、罪とはなるが、所有權そのものは決して否定すべき性質のものでないと信じて居る。この點で西田氏は全く中世紀的錯誤に陷つて居り、從て氏の思想は現代の社會組織の潜勢力（一部の個々人には或感激を與へるとしても）となる事は許されまいと思はれる。

然し私は西田氏の恁うした態度を善意に解して、氏の所有權否定論は、一派の社會主義者達の樣な、鬱憤や不滿から出たものではなく、「修道の妨げ」と云ふ見方から呼ばれたものだと觀たい。それにしても氏の考へには、明るい積極的な方面は見當らぬ。從て托鉢と云ふ言葉に依て意味さるゝ雜業に遁避して、所有權を是認する「事業の世界」、乃ち純職業の世界から退陣されて居る。而も氏の奉仕や飮食が

「事業の世界」に幾分でも交渉しなければ成り立ち得ない所を見れば、氏の態度は寄生々活の樣にも見え生溫るい妥協的生活とも謂はれる。この點で私は寧ろ、武者小路氏の「新しい村」の獨立的精神と、非妥協的生活の悲壯な態度を尊しと思ふ。

斯樣な譯であるから、西田氏一派の思想なり態度なりが何れほど情味も潤ひもない嚴肅主義、禁慾主義であるかは自ら首肯が出來やう。それが奢侈淫蕩に墮ちた現代人に對しての、一の反動的態度としてなら、慥かに或る意味はある。然し私は、極端な贅澤か正しい生活でない樣に、極端な禁慾も亦本道だとは思はない。私は信ずる、人間は人道と社會との爲めに負へる使命を有する（それを遂行する爲めには、時に極端な禁慾も避け得ないに違ひない）と同時に、自分自身の人格的生活を享樂する任務があるのだと。本當に、神が私共に與へられた生命と慾望を正しく育てゝ、一個の人格に仕上げる生活を、單なる禁慾主義で箱庭式に萎縮させる事は考へなくてはならない。

この點に關して私は、西田氏の高弟倉田氏が恩師を眞理の立場から批判された言葉を「靜思」から惹かして貰ひたいと思ふ。

『生を與へられた者が、その生を享け樂しむと云ふ事は實に從順な、自然な慾望であつて、屹度神が許して居ると自分は確信する者である。自分は此れを肯定しない努力主義、修養主義、奉仕主義には反對する。これを肯定しない時に、人間の生活は乾いた餘裕のない、四角四面な興味少きものとなるであらう。自分は彼の蟻の如く營々たる生活や、又山伏の如く血眼になつて息き込む行者的禁慾的修業を、人間の當にあるべき生活の姿として、自然な、適當なものであるとは思へないものである。――武者小路氏はかゝる種類の享樂を認めて居るが、西田氏にはその點不滿を感じない譯には行かない。』

無論西田氏等の禁慾主義が、或る少數の同感者を得る事は出來やう。しかし其れが永遠の眞理として

多數人に深大な實行力を殘す事は有り得まいと思はれる。感化の特殊化は、必ずしも一般化を意味しない。よし又或る特殊の人々が、氏の同行者となり得るとしても、果してそれが其人の一生中變らざる生活態度となつた幾多の實證がなくては、其禁慾主義を人類的のものとして提唱する事は早計に失する。

イエスは決して單なる禁慾主義ではなかつた。「彼は飲食の享樂者だ」とさへ暴評された位である。彼は驚くほど自然的な事を愛せられ、有難い程人間性を尊重された方である。思ふに西田氏はイエス型の人でなく、バプテスマのヨハネ型の人であると云ふた方がいゝ。

西田氏は荐りに辯解して居られるが、氏一派の思想なり態度なりが非文化的であるとの譏は免がれない。氏が現代の文化を否定されるには、尤もな意義を認めないのではない。しかし氏が現代生活の缺陷を整理する爲めと冒頭して、その眞實文化の成立の要素を否定して居られるのは可笑しい氣がする。例へば一人の畫家が、一燈園に入園を申込めば、氏は先づその畫家に畫家たる望みを斷念せしめ、托鉢てふ雜業を命ぜられる。而してこれは何人に對しても同じである。茲に西田氏の非文化的態度がある。私は氏のために、本當に惜まれてならぬ。

ミレーの祖母であつたと記憶するが、彼が鄕里から巴里へ遊學に行く時、「お前は畫家になる前に、基督者である事を憶へて居なさい。……溺れずに永遠のために描きなさい」と云ふて勵ましたと云ふ事である。彼と此れと對照して、大變な相違である。確かに文化の無關心者と擁護者との差違はある 仍で私は、何うしても改造論者は、文化の保護者であり理解者でなくてはいけないと思ふ。

私は此所にも、倉田氏の西田氏評論の一節を引いて、倉田氏に依て私の心持を代言して貰ひたい。「靜思」の二五五頁に次の樣に論じてある。――

「西田氏は人間の事業、使命と云ふものには可成り冷淡な人である。或る一つの事業に使命を感じ、其

事業を成就して、其處に人間としての、此の人類の文化の歴史の中に於ける意義を立て、生甲斐を感ずると云ふ如き欲望は、西田氏には寧ろ一の執心——煩惱の一種に見えるのである。……

氏は進化と云ふ事を認めない。世界は昨日よりも今日が進歩したと言う如きものでなく、不增、不減、不垢、不淨と云ふが如き一定した世界であつて、人が其煩惱の雲霧を拂ひ、本然の道に立ち返へれば、本來の光明世界が現出すると云ふ思想である。……然し自分としては、氏と同じ世界觀乃至人生觀に立ち能はざるものである。自分は——宇宙の進化を認めるものである。從て人類の文化に貢献ある仕事を成就する事に依て、一時に萬人に奉仕する道の存在する事を肯定するものである。否寧ろ、個人が此世界に於ける存在の意義は、此世界の進歩、人類の文化に少しでも貢献する事業を成すところに存すると考へられる。」

洵に、西田氏が倉田氏から評せられる如く、人間の事業や使命に無關心であり、文化と云ふものを考慮に置かれぬ限り、氏の思想は現代指導の力とは成り得ぬ事を知られねばならぬ。

西田氏の思想に、著しく目立つのは濃厚なセンチメンタリズムである。氏が精神病者や放蕩兒や無賴漢などを、何時も涙ぐましい態度で迎へられ、「あんたの不運や罪は私の罪だ。私が惡いためだ。先づ私を懺悔さしてほしい」と云つた心で、彼等を容れられる。氏が人の罪を自分の責任の樣に感じて泣かれる、その心の深さには全く感心する。而してそれに依て不思議に、可成多くの性格破產者が整理されてゐると云ふ報道は、本當に驚く可き事である。しかし氏には個人的の罪惡に對しては、感傷過ぎる程の敏感さがあり乍ら、何うも制度化し社會化した罪惡に對しては別に意見や、態度をも示されたのを聞かないのである。これは西田氏のセンチメンタリズムに許されてゐない事を、強いて望む愚かさかも知れない。

私は單なる感傷主義では、決して社會救濟の宗教は成立しないと思ふ。罪に泣くのみで、罪と對持して奮闘する悲壯の精神なくばよし、少數の個人をポツ々々救ふ事は出來ても、社會全體を活かす譯には行かないのである。宗教には何うしても徹底したセンチメンタリズムに合せて、剛岩な豪氣な氣質を缺いてはならない。西田氏にはそれがないのではないだらうか。

　罪を恥じてゐる一娼婦に、西田氏の様に衷心から萬解の涙を灑ぐ事はいゝ。「いゝ」と云ふ以上に、夫は深い眞理の懐から湧いて來る智慧である。然し同時に、一娼婦の不幸と恥辱との背後に、遊廓制度と云ふ制度化した罪惡があり、其制度に寄食してゐる樓主の罪がある事、而して此等の社會化せる罪惡を打破しない迄は、娼婦のために泣いた人の責任は輕められないと云ふ事を忘れてはならぬ。この點でも西田氏に對して、滿されぬ疑ひが私に殘されてゐるのである。

イエスを見給へ。彼は現行犯の一婦人に對して、「我も汝の罪を定めず、再び犯す勿れ」と云はれた事である。然しイエスは、西田氏が立ち止まつて泪に掻きくれて居られる所から、更に一歩前進して居られる。即ちイエスは、エルサレムの神殿で、神官商人等が共謀でやつてゐた所謂「神殿制度」の一なる商賣を見られた時、この巧みに變装した制度化した罪惡に對して、猛然繩の鞭を執つて「宮潔め」をされた。これがイエスの態度であり、基督教の個人並びに社會に對する態度なのである。私はこれでなくては、社會は救へず、社會を改造する事は不可能だと信ずる。

　最後に、西田氏の所謂「御光り」に就て一言を費して置かう。然し氏の「御光り」と云ふのは、何等の哲學的基礎を有して居らず、極めて神秘的にして抱括的眞理なりと云ふの外、思索の側から伺ひ知る事の許されぬものであるらしいから、これに對して哲學的批判を加へる事は出來ない。只氏の「御光り」に對す

る態度、併びに諸宗教に對する心持に關して云ふに限りたいのである。

氏の言說に據れば、氏は諸宗の眞髓を禮拜するのみで、既成宗教の孰れにも固執しないと云ふのである。基督者の家庭に行けばアーメンと祈り、淨土眞宗の信者の家では合掌して念佛を唱へ、日蓮宗者の前では南無妙法蓮華經と合稱すると言ふのである。一見、恁うした態度は、如何にも嚴肅鮮明なる信念を避けて朦朧とした神秘の幕に蔽はれた信念で滿足したがる現代人には、眞實にも見え、尤もらしくも映じる。然し其處に、西田氏の信仰の對象の不明であり、智的曖昧があるのだと私は思ふ。西田氏の樣に、諸宗の眞理に尊敬を拂ふのは、氏のみでなく、諸宗教者の當然な態度であらねばならぬ。けれど夫れが爲めに、自己の信仰の對象までを不明と曖昧の裡に放置してい丶譯はない。信念の對象は、鮮明なるを要する。仍で、諸宗の信念の對象を尊重すると云ふ結果、諸宗教の對象なら何でもい丶と云ふ事になるなら、これは誤つた態度と云はざるを得ない。

氏は實際上の智見には非凡らしく見ゆるが、氏には信仰上の對象を突き止める叡智が乏しい。氏には營々默々として爲す所の勞作はあるが、所信の眞諦を闡明する宗教哲學がない。直觀のみあつて、理性がない。氏の「御光り」は、只御光りと云ふの外、表現の仕方のないものである。御光りと言ふ詞以外では言ふてはならぬものであり、深く考へてもならぬものである。氏は基督教の神、佛教の佛、儒者の天を總括して、「御光り」と呼ばれる樣であるが、私には夫れは寧ろ世間の批評に對する一の辯解であり、申譯である樣な氣がする。若し辯解される位なら、今一歩を進めて「說明」に依て「御光り」を明示された方がい丶と思ふ。また假りにも「御光り」を以て、諸宗の總括的原理だと信じられるなら、諸宗の眞理を統一する丈の理論上の內容をも教示されなければ、不親切の譏を免れないと思ふ。

要するに實行的に萎縮した現代には、信の對境を

ぼかして置いても、只實行力と神秘的氣分のみでも一時は間に合ふ。大本教などの一時流行した事を考へれば、思ひ半ばに過ぐるものがあらう。しかし應て理智の眼醒めは來る。その時には最早「實際」とか「神秘」とかでは胡麻化せなくなる。尤も氏は「御光り」の智的分析は無駄で、只體驗のみ尊い。俺の實際を見てくれゝば判る　と云はれるかも知れない。なるほど恰度孔子の天が頗る漠然たる觀念であつたに拘らず、孔子には實行力だけはあつた樣に、氏には智的洞見がなくとも實際的方面は豊かであらう。けれど夫れでは、孔子の教を宗教と云へない樣に、西田氏のも宗教とは考へられなくなる。氏は宗教を棒に振つても、單なる實行教で甘んぜられるのであらうか。兎もあれ、理智の透明を需むる現代人あに對しては、氏の思想的立場には遺憾な點が尠くない。

頗るまとまりの悪い叙述ではあつたが、それでも私が氏に對して抱いてゐる大體の心持だけは述べ得た積りである。再度お斷りをして置くが、これは決して氏の人格なり德なりを傷ける考へからなしたのではない。只氏の心持に同感を持ち乍ら、而も非常なる敬意を感じながら、私が氏に對して疑念を抱いてゐる點、自分が異なりと考へてゐる事柄を申述べて、本誌讀者の心持に訴へたいが爲めである。

―七・十四―

聖書研究

羅馬書講解

大阪　武本喜代藏

其三　贖罪の信仰　（三章二一―三一）

パウロは一章十八節より三章二十節迄一般人類の罪、更にユダヤ人の罪惡に付いて述べ、筆を極めて論難して來たのであるが、此二十一節より忽焉語氣

を改めて贖罪の信仰に及び、さながら暗夜に一道の光明を見る如く、罪の叱責の下に全然救ひの望みのなかつたものに「今律法の外に神の人を義とし給ふことは顯はれて律法と預言者は其證をなせり」との喜びの音づれを傳へてゐる、用意周到、理路整然、神の救の計畫を闡明して遺憾がない。

所謂現代人は兎角罪を輕視する、從つて贖罪の必要を感じない、罪に惱み、罪に悶へたものでないと贖罪は分らないのである、現代人に罪がないのではない、只彼らは罪を遺傳や、境遇に歸して自ら其責任を回避せんとするのである、現代人は多くギリシヤ文化の影響を受けてゐる、彼らは快樂主義者である、自然を樂み、性の飽滿を求め、洒々落々、罪を變化して了ふ、そんな人々に贖罪の解せられよう筈がない、贖罪は先づ正義の神の前に、眞劍に罪を恐れ、苦み、悔ゆる人にして初めて信ぜられ、解せらるべきヘブル思想で、同時にキリスト教的信仰の根底である。

パウロは今嚴格な法庭を出て、神の惠の奧殿に入らんとしてゐる、儼めしい法官服を脫いで、福音の備へを靴として足に穿んとしてゐる、彼が今より宣傳せんとする所はキリスト教の眞髓、福音の根本義である、特に二五、二六節は聖書の眼目とも謂ふべき意義深重の聖句で、カルビンは「全バイブル中、恐らく此二句の如く深くキリストに出れる神の義を說き現はしたものはなからう」と謂つてゐる。

「神は其血によりてイエスを立て信ずる者の挽回の祭物と爲給へり、蓋神忍で己往の罪を寛容に爲給ひし事につきて今其義を彰さんため即ちイエスを信ずる者を義とし尙みづから義たらんが爲なり」

若し此らの聖句が徹底的に了解されたならロマ書はモウ分つたと云つても好い、ロマ書が分つたら舊新兩約書の大主意は了解されたのである、キリスト教の中心思想は十字架である、而して十字架の何物たるかは此兩節に遺憾なく現はされてゐる。

律法や道德の外義とされる道が絕對にないものとすれば、世に誰一人義とせられ、救はれるものがあらう、人間は皆死の宣告の下にあるではないか、律法と罪，道德と不義、兩者は絕對に相容れない、一度律法を破り、不德を爲さんか永久罰せらるべきである、寬恕の途は何處にもない、贖罪の信仰を棄てゝ罪人の立つべき瀨が何處にあらう。

（二）神は其血によりてイエスを立て信ずる者の挽回の祭物と爲給へり。

血とは犧牲として世の罪の爲めに神へ捧げられたキリストの聖き生命を意味する、それは信仰てふ鐵管を通して罪の汚れを洗滌すべく噴き出づる癒しの泉である、罪人は之に依つて潔められ、之を飮んで罪を癒される、千九百年來、クリスチャンの深い靈的實驗は理論は兎もあれ、我らの咎は此血に依つて赦され、其罪は唯此血に依つてのみ潔めらるゝことを說明して餘りがある。これは罪なき者が罪あるものゝ爲めに注いだ贖罪の血である、律法も道德も潔め得なかつた罪を、只此十字架上に注がれた血のみが全然、何らの功なくして只信ずるてふ一條件の下に赦し、且聖めるのである。

「挽回の祭物」とはツマリ贖罪の意味で、舊約から來てゐる、則國民の罪に對するエホバ神の怒りをなだむべく牛羊を犧牲として捧げたことである、キリストは則其點で、世界人類の罪に對し。神の義のゆへに自らを犧牲として十字架上に血を注ぎ玉ふたのである、罪なき彼の血は萬人の贖に値ひする、神の義は彼の血に依つて滿足された、彼のみ永遠に贖罪を成し得るのである。

罪があれば其當然の罰として誰かゞ苦みを受けねば成らぬ、然らざれば神の道德政府は紊亂する、人間が已に罪を犯した以上、人間自ら其罰を受けて全滅するか、然らずんば罪なき神の子が代つて其苦を受け玉ふかである。愛なる神は無論人類の全滅を欲し玉はない、從つて殘るは只代贖的死の一途なるのみだ、則神は罪なき者を我ら罪人の代りと爲して死

なしめ、それに依つて義を完ふし救を成就し玉ふのである。

罪人の爲めに無罪者が死ぬると云ふことは不合理ではないかとも云へる、が併し昔から戰爭の時や、流行病、御家騷動、喧嘩などの場合に一人の義人が死んで多數の罪あるものが救はれ、贖はれた實例は幾らもある、之れ自然界にも、心靈界にも行はるゝ尊い犧牲の法則である、神の子は自ら進んで化身し、人と化り、罪人の中に數へられ、一死以て萬民を其罪の滅びより救ひ出し玉ふたので、決して不合理ではない。

(二)蓋神忍びて已往の罪を寬容に爲給ひし事につきて、

「已往の罪」とはキリスト降世以前の人類の罪である、勿論神は過去、現在、未來を通して罪を罰し玉ふ「屍のある所に鷲集らん」で、罪の在る所にはキツト神罰が來る、が併し神は人類教育上、過去に於ては罪に對して頗る寬裕の所置を取られたのである

(三)今其義を彰さんため即ちイエスを信ずる者を義とし尙みづから義たらんが爲なり、

「義を彰さんため」とは何の意か、神若し、罪を其儘に傍觀して、何らの所置を取り玉はないならば神の義をどうして信じよう、神は善惡無差別だとも云へる、從つて此宇宙は無道德、無規律の亂雜な場所と成つて了ふであらう、神は過去に於て罪人を忍び寬裕に處し玉ふたにもせよ、何時かは必らず宇宙の王として、審判主としての義を發揚し玉はねば成らんのである。

罪人はどうして赦され、救はれるか、一旦神へ罪を犯したものがどうして義人とされるであらうか、自分にも人にも義の衣の持合せがない、みんな古びて了つた、汚されてゐる、此上は只彼を信ずることに依つて、功なくして、神より白き義の衣を頂戴する外ないのである、併し無條件に、誰にでも與へられぬ、そは品性上有害である、故に其唯一の條件として信仰を求め玉ふのである。

神は上より赦罪の符號としてキリストの血を與へ玉ふた、十字架が則赦罪のしるしである、併し我らが下より信仰を以て之を仰ぎ、之を信ずることを要求し玉ふ、上下一致、初めて救の完成を見るのである、彼は何人をも救ひ玉ふ、只信じない者丈けは如何とも致し方がない、川迄往つても飮まないなら渇死する外ない。

「尙みづから義たらんが爲なり」十字架の死は罪人の爲に必要であつた斗りではない、神御自身の爲めに其必要があつた、若し神が罪を罰し玉はなければ神は不義の神と成り玉ふのである、少くとも人間にしか感ぜられるのである、かくては神はどうして人を罰することが出來よう、神は何かの手段を以て自らの義を證明し玉ふべきである、それが則十字架であつた、神はイエスを罪人として罰し、人類の罪の代表者として極度に迄彼を罰し玉ふたのである。

十字架の血は人間に罪の如何に恐るべきかを悟らしめた、罪は輕々しく赦されない、赦罪の爲めには血を要する、我らが日々犯す罪がどんなに神を苦めるか、罪なき者を死に到らしむるかを示して戰慄さすのである「ア、惡かつた」と悔改さへすれば直く赦され、帳消しにされて了ふやうなものなら誰がさう罪の爲めに泣くであらう、罪は神の子の死に値ひする、かく信じてこそ懺悔痛悔の淚も出るのである眞の悔改の實も結べるのである。

十字架の教

（修養會講演梗概）

山室軍平

それ十字架の教は沈淪者には愚なもの我儕救るゝ者には神の能たるな

基督の御生涯に十字架のつき物たる事は萬人の知る所である。十字架とは何であるか何處の國でも極惡の罪人の爲の刑である。日本に於ては平安朝末期から「張付」と言ふ語が諸々に散見して居る。永暦元年頼朝は長田忠致、景宗の二人を磔殺した。又永祿の頃鳥居强右衞門は長條城から脱出し家康と打合せし歸り、武田勢の爲捕へられて十字架につけらる秀吉は光秀の屍に首をつぎ合せ粟田にて張付につく千六百四十五年に佐倉宗五郎が村民の爲を計り將軍に直訴し磔殺さる。近くは明治元年十一月「君父を殺す大逆罪は臨期勅裁之を磔刑に處す可き事。同二年强盜三名の手引をなし主人を殺害せしめたる小僧を横濱クラヤミ坂にて磔に處す。同三年新律綱領出で磔刑全廢す。此磔は多くは「キ」の字形であつた。

刑罪秘錄に曰く「御仕置場に囚人引來り候はゞ下働非人六人にて馬より下し、罪木へ仰向に乘せ、首を横木へ結付、二人づゝ左右に廻り高腕を横木へ結付け、囚人の着類を左右脇下より腰の程迄裂り胸板の處へ左右より巻付け三ケ所程繩にてイボ結に致し、胴繩タスキ繩をかけ手傳人足十人餘りにて罪木を起し根を穴の内へ三尺餘り埋込み、土にて緊め彈左衞門手代、檢使、與力、相向ひ、下段同心。囚人の名前を承り、彈左衞門手代突かゝり候樣差圖致し下働、非人、鑓を持ち左右より囚人頭より三尺程隔て(アリヤ〳〵と聲をかけ)鑓の穗と穗とを合せ見せ鑓を突き出す、それより左右へ分れ一方よりアリヤ〳〵と聲をかけ）脇腹より肩先へ鑓穗先一尺餘突出し、一つ捻り、(鑓柄へ血の下らざる爲なり)右鑓をぬき一方より直ちに(アリヤ〳〵と聲をかける)前同樣鑓突拔き直ちに鑓の血をぬぐひ候、者別に一人有之候て突く毎に拭ふ。右鑓其後は代る〴〵左右より突く、鑓數凡そ二十本より三十本位突く、檢使へ伺ひの上、咽喉突左右より止め鑓をさす。

外國にも磔の刑がアッシリヤ、挨及、ユダヤ、ロマ、ギリシヤ等にて皆行はる。羅馬にては追剝、海賊、暗殺者、一揆 謀反者殊に奴隷及び賤民に行ふ、

パウロは市民權ありし爲之を免れペテロは逆に十字架にかゝつたと傳へられて居る。十字架の由來は罪人を木に懸けて罰したのが本で斯くなつた樣であるエステル書にハマンを木にかくと言ふことがある。十字架には「丁」と「十」の二樣あつた。此刑は十八世紀の末に廢止となる。

キリストの十字架は如何ものであつたか、基督はエルサレムの市外、西北にある形狀、髑髏に似たるカルバリ山にて紀元三十年四月上旬十字架にかけられ給ふ。何故に茲に至つたか、形式的宗教を排斥して敵を得給ふ、人民の僞善と姦惡とを叱咤して殊に長老、學者、パリサイ人等より怨を買ひ給ふ神の子なりとの宣言を瀆神なりと責められ、世俗の王とならざりし失望、裁判官の薄志弱行等の爲罪なくして十字架にかゝり給ふた。彼の詩人ハイネが曰「絶大靈魂あり、其思想を以て言語に發すれば必らずそこに「ゴルゴダ」があると。

基督が十字架を負ふてゴルゴダに行き給たふ時に疲れて十字架を負ひ兼ね「クレネ」のシモンが主に代つてかついだ傳說にヴエロニカと言ふ婦人が見兼ねて手巾を貸して汗を拭いた爲に彼の顏が手巾に印し是のみが彼の姿を世に留めたものであると言はれて居る。十字架の苦痛は身神の奧惱の爲非常なものであつた、全身の重味は手足の釘にかゝり、釘を打たれたあたり神經が網細の如く緻密に出來て居るから痛を感ずることが甚しい、釘の當つてる邊は忽ち腫れ腐れ始める、腦に充血して頭痛がする體力の移ると共に痛を增し發熱の內に渴に苦む。基督は朝九時に十字架に懸けられ午後三時息が絕える兵卒が止めの鎗を刺した時血と水と迸り出たと言ふ、これは心臟が破裂して居た爲であらふと言はれる。

十字架上の七言

1父よ彼等を赦し給へ、其爲す所を知らざればなり。2我試に汝に告ぐ、今日汝は我と偕にパラダイスにあるべし。3「女よ視よ汝の子なり」「視よ汝の母なり。4「我渴く」。5「我が神々何ぞ我を捨て給へ

ひし。6「事畢りぬ」。7「父よ我が靈を御手に委ぬ。」と其御最後は實に神々しかつた、ルソーが「若しソクラテスの生及び死が哲學者のそれならば耶蘇の生及び死は神のそれである」と云つた。

千九百餘年前の十字架上のイエスと吾々は如何關係があるか、三つに分けて考へて見ると第一は耶蘇の十字架を見上げて救はれる事である「人の子の來れるも事へらるゝ爲にあらず反つて事ふる事をなし又多くの人の贖 して己が生命を與へん爲なり」罪から贖はれ許される迄神と吾々との間は遠々しくなつて居る。イエスによつて天の父に歸る時如何人も救はれるのであるバンヤンの天路歴程のクリスチャンが十字架を見上げて罪の重荷が底なき穴に轉り去つた、ルーテルは惡魔から罪を責められた時答へて「けれども基督の血凡ての罪より我等を潔む」と惡魔を奔弄した、又ウエスレーの遺言の一には「我は罪人の首なり、されども耶蘇は我が爲に死に給へり」と言ふた。罪に死んだ我々か十字架を見上げおすがりする時救はれるのである。

高德の政治家グラッドストンは、自己の罪に對する思やりのない叱方をし此爲に一週間も悶えた、吾は天の神の前に正しいか否かそしてどんなに人に接して居るか。

第二はイエスの十字架と我々の聖潔

我々は耶蘇の十字架を見上て救はれるのだが罪の己に死んで愛の己れに立歸らなければならぬ。基督を學ぶ書に「フイミテーション、オブ、クライスト」ストーカーの「基督の姿」アンドリユト、マーレーの「基督の如く」ホスヂックの「耶蘇の人格」等があるジョン、スチユーアート、ミルは何によつて罪を決するかと言ふ定義に曰く「倫理、道德の問題の判斷に一番善きはナザレの耶蘇は如何にし給ふかと考へる事なり」と、基督の心を心とし十字架にすがる事である、テニソンの言つたやうに我等の意は之を神のものとする爲に存して居ると、又ハンナ、モアは同じ事を言つて居る「我が意志は汝の意志の中に悉く併呑せられ、我が意志を爲しつゝ汝の意志を爲す

に至らしめよ」と。今の時代に一番要求されてるものはキリストに充たされた人である。深川の水、器の大小はともあれ耶蘇の靈が諸姉の胸に入る事である。クロムウエルは鐵鎚をさげて歩んだ、今の日本に於てさげるべき物は何であるかキリストを胸に宿した者が出なくてはならぬ。

第一には十字架を前に見上げて罪より救はれ、第二は其身を十字架につけて聖潔を得たが第三には、十字架を背に負ふて進まなければならない、即是が經驗を得る事である「凡て勞たるもの、重荷を負ふ者我に來れ、我汝を休ません、我は柔和にして心卑ければ我が軛を負ひて我に學べさらば靈魂に休息を得ん、我軛は易く我荷は輕ければなり」基督は我等の重荷をとり去り給ふと共に小さな己れが死に次に恥を忍ぶ力を與へ給ふのである。我々は十字架を負ふてるか、神の榮と世の救との爲に十字架を負ひ耻辱と、苦痛と、必要ならば死をも甘んずる心があるか。クレネのシモンは強いて十字架を負はされた彼は是れを恥たが、十字架上の耶蘇を仰ぎ見、且つ「父よ彼等を許し給へ彼等は其爲す所を知らざるなり」「今日汝パラダイスに居るなり」「父よ我靈を汝にかへす」此等の言葉を聞いて、ローマの軍人百人の首が眞に此人は神の子なりと叫んだ時シモンも同感に打たれたのである。多分泣きくづおれた。マリヤ及ヨハネは後について行きイエスの話を聞いた事であらふ、彼はエジプトに信者となつて歸つた。そしてアレキサンデルとルフを呼んで、自分は島民の爲に神の使し給ふた神の子の十字架の重みを感じさせて頂いた果報者である、物移り星變るも、如何事があるも是を世に語り傳へよと語つた事である。彼の妻はポーロがルフの居る地方に傳道に來た時、親しくねぎらふた。ロマ書十六ノ十三にルフと其母に安きを問へ彼の母は我母であると言はるゝに至つた。耶蘇の十字架の意味が知れる時に其重味は取去られる。同胞の救の爲に十字架を負ふて起つ時に眞に生き甲斐ある人となる。ツインツホンドルフは十字架の耶蘇の繪の下に「我は汝の爲に此の如くなせり、汝は我が爲に何をなすか」としるしてあるのを見て感奮し身を神に献げ、政治家たらしめんとするを辭し 宗敎に身を委ねモラヴィア海の首領となつた。我等は彼の爲に何をなすべきか悔改めて聖潔を得十字架を負ふて進みたいものである。（在文責筆記者）

東山荘一週

岡崎小文

今年の夏期修養會は、七月十二日午後七時十五分御殿場東山荘の講堂で開會式が擧げられました。正面の講壇の板壁の高い所に「汝等は皆キリストイエスに在りて一つなる也」と墨痕あざやかに緑の檜葉に圍まれて來會者二百人に Oneness in Christ の眞理を私語やいてゐる、當日不幸にも委員長井深花子夫人から十四日でなければ御出でになれないとの電報がありました爲、ミスゼエンスコットが歡迎の辭を述べられ、河井總幹事が司會され、開會の辭に、奬勵と希望とを述べられ、最もよい修養會たらしむる爲に各自ベストを盡さんとの感激は多くの姉妹方のお顔に見られました。

日々の旱天祈禱會は六時から半時間有志者のみが集つて靜に反省し熱心に祈り大な祝福を受ました集會者は毎朝百人以上で司會は多く學生の方々がされました。禮拜、聖書の組、諸講演はプログラムに從つて行はれ、いづれも思ふに勝る恵を與へられ、今年の聖書の組はほんとうに善かつた、講演も智的であり且つ感激の深いものであるとの聲は耳の短い私にも幾度か聞えました。本年の協議會は例年よりか趣を異にしました。第一日には各市青年會の報告、第二日から三日間クラブ組織、有職婦人の經濟と修養、信徒學生と校內青年會、信徒學生と教會の四部に分れて討議し、第四日には松田氏から勞働問題管見を聞き最後の日に各部の代表者が協議の結果を報告しました。不準備の點は遺憾でしたが兎に角例年

よりかも一歩を進んだものではありました。明年は更によい準備をなしより有効な協議會にしたいとの望が起きました。

午後の時間はどんなに用ひられたか一寸お知らせ致します。一時半から二時半までは午睡をし五時迄の間に入浴を毎日しました。十四日の午後二時半から今度修養會の場所として購入する事になりました地所を見に遠足かた〱出かけました東山荘から一里半餘の所です。七千坪にしては起伏凹凸がありそして森がそこゝにあります爲實際以上に廣い感じを與へます、學生、女工、有職の三方面を代表した人の手により記念樹を植え、河井先生の御挨拶があつて圓形を描いて列んで居た一同は歌ひながら進行し手にして居た小笹を其樹の周圍に挿入して歸りました、第十七回目の修養に於て植えられた此の木がやがては大木になる日が來やう、人は去り人は來るそして本會の精神がいよ〱成長發展して年と共にいよ〱天國を地上に來らす爲に努めたいものであります。十五日の午後は親睦會を催し、各學校其他の團體から實に頓智のよい隱し藝をされ、眞面目の他面にユモアーのある所を示されお互が此日から稍打解けて來ました。十六日は日曜日である爲静かな午後を過し夕陽の沒む頃ベンチを外に持出して心ゆくばかり讃美歌を歌ひ、清い涙ぐましいやうな貴い一時を過しました、十七日は競技會、ブリユー、グリーン、レッド、パープルの四組に分れ各種の競技があり優勝旗は遂ひにブリユーの上に落ちました。十八日には音樂會が催され、小池氏とミスチヤペルの御骨折の下に美しいメロデイーが自然の耳を驚かせ人の心を醉せました。其後で東山湖畔のライブラリーで質問會が催され、十九日午後も引つゞいてこれが行はれ渡邊先生及金井先生が御熱心に御勞れも忘れてお答へ下さいました。こうして午後の時はいと有益に過ごし得たのです。或人は修養會にまで巫山戯たり、競技をしたり、午睡をするのが知れないと感じられた方もあるやうですが、世の半面の悲し

める人苦しめる人を顧見ぬ仕方でないかと思はるゝのは尤ですが、眞に奉仕し得る人にならんとするには此方面もなくてならぬ事です。朝から晩までお話を聞き通しにし話ヶ心に入らず疲勞してアブノーマルにならぬ爲には是等のものは必要です。たゞ其程度は氣をつけなければなりますまい。夜の講演の後でグループ々々に分れて組會が催された始めは形式的で熱がなかつたらしいが終に近づくにつれ力ある熱のあるよい集をされたとの事です。今年の基調となつたものは、我等はキリストにあつて一つである共通性を有すると共に各自が特種なユニックなものを持つて居る、小さきも強きも愚なる者もそれ〳〵が占むべき場所があつてそこに使命を感じ奮起して奉仕の人とならねばならぬとの思想でした。

十九日の夜は井深夫人の閉會の辭、數名の姉妹の感謝の證しの後ローソクを持つて二列に並んで庭に出で「みよや十字の旗高し」の讃美を歌ひながら進行て繩を張り灯提を下げてある門をくゞつて早舞臺に變つた西洋館の玄關前の石壇の方に進む。兩側には白百合の花の生垣、正面には中央の白い幕の上にグリーンの大な十字架か浮き出基督の愛を語つて居る其下に白の布で頭をつゝみ其端が肩の下までたれお手には大なキャンドルをもつて嚴に河井先生が立つてゐらつしやる。各々は持つて來たローソクに火を受け二列の百合花垣に並行して人垣を作つた折からの風がともすれば手のローソクの火を消さうとする、手もて袖もてこれを防ぐ、其間を此日新に受洗決心された十二人の姉妹が井深、中路の兩氏に導かれて左の手に百合の花右手にローソクを持つて進み火を受けらるゝや一同は圓形の一つの大な輪となりリーダが汝等は今各々火を受けたりと火の解あかしをなし祝福の祈をされてローソクで大な輪をかいて合圖をさるれば一同火を消す。小池孃の「み惠ある光よ、日は暮れ」の獨唱が暗の中に震へて魂を動かした。光の父よの歌を歌ひながら、リーダーによつて點火されたキャンプファイヤーの周圍を手をつない

で静かに歩み終りにお別れの歌神共にゐまして行道を守りを歌ひ終るとリーダーなる河井先生は嚴な語調で日本基督女子青年會第十七回夏期修養會は是をもつて閉會すと宣告されました。御空には星がくしく輝き闇を縫ふては燃えあがる殘んの火……。

凡ての力の源であるキリストを知り基督に知られ流れ出る力によつて高い廣い深い歩みをし人々の幸福を増す者となり得る爲に強い感激を受け得た、祝福された惠のゆたかであつた此一週、感情的には餘り走らなかつた而し静かに培かわた理智は、明智は各々の胸に入つてあたゝめられ使命を知り得た時燃え上る火となり烽となる事であらふ。人として完き道への憧が强められた。空を飛うとした私達は地に石段を積んで其上に立つことを敎へられた。暑い此日恩寵の山の上を見上見顧り感謝の中に筆をとりました。最後に一つ悲しかつた出來事を書かずには居られませんそれは思ひもよらぬ七八名の病人を出した事です。御病人はどんなにかお苦しくお淋しく悲しかつた事でせう當局者も少からず心を痛めました今迄に例のない事です、何の原因か何の爲かそれは知れません。小さな注意を怠る所に鞭を受けます。幸ひにして經過はよい樣でしたが、まだお苦しそうな姉妹もゐらつしやいました何卒其方々が早く全快されん事を祈つて筆を擱きます。(七、二〇)

第十七回修養會事務報告

代表者を送られし學校青年會數	二五
右出席人員	一二〇
代表者を送られし市青年會數	五
右出席人員	三五
個人出席人員	一三
聖書ノ組講師	四
講演者	一一
幹事	二四
中央、東京、横濱委員	五
訪問者	七
出席者合計	二百四八
內メソジスト	二九
組合	二一
日本キリスト	六五
バプテイスト	三
教會に屬さぬ者	三八

幹事中央委員訪問者は此中に含まず



母（一）

村岡花子

「ラウラ、ベルサ、さあ、もう起きないと、今夜の間に合はないよ。食事はすつかり出來てるから、早く起きて御出で。」アームストロング夫人は美しい二つの着物を椅子の背に掛けながら、二人の娘を呼んだ。彼女の總領娘のラウラは母の聲に眼を醒して、大きな欠伸をした。ベルサとラウラは今夜近くの村で開かれる音樂會で演奏する前に一二時間午睡をしたところだつた。其の晩の司會者はアームストロング氏で、此家の子供達は皆、何かしらで、プログラムを助けるのであつた。

「ベルサ、早くお起きなさいなね。御夕飯の仕度が出來たつて、母さんが言つてらつしやるぢやないの早く下へ行きなさいよ。食事の後で、もの一度、あの合唱をやつて見なけりやならないのよ。」

ラウラがベルサを搖り起してると、階下では、弟のジャックが焦つたさうに、足を鳴らして居るのが聞えて來た。

「オイ〳〵姉さん達、冗談ぢやない、もう何時だと思つてるの？母さんがすつかり着物のアイロンまで掛けて下すつたぢやありませんか、好い加減で起きたらいいでせう。」

「どつちが如何だか分りやしないわ。今日終日中母さんを追馳け廻して、ミットを探して頂いたのは誰？」

「だつて仕樣がないぢやありませんか、何處へ入つちまつたか分らないんだもの、母さんに聞くより他

は有りやしない。母さんは少つともそんな事を厭がりなさりやしませんよ。」

一同は食卓に着いた。ジャックは自分の椅子に行く途中で、一寸母親の頭に手を載せて、につこり、笑を見せた。母の眼はジャックが椅子に着くまで、彼等は離れなかつた。六人の子供の中で、若し、アームストロング夫人が特別に愛して居る子といふのが有り得たならば、それは此のジャックだつた。今は最早ベビーでもないけれども、未だ家族中で、「ベーブ」と呼び馴れて居る七歳になる末の娘が生れてからも、夫人の心にはやつぱりジャックが最後の子供のやうな氣持も殘つて居るのであつた。

食卓に集まつた其の一群は實に美しい一群だつた氣心の合つた大人ばかりの集まりによく見られる賑やかさと面白さが食卓中にみなぎつて居た。

ラウラとベルサは自分達の合唱の伴奏をするウオルターにもう一度丈けの練習をせびつて居る傍では、チックが夢中になつて、バイオリンの絲の在家を尋ねて居た。「ベーブ」は猫と犬を自分の兩脇に置いて交る〳〵に食べさせてやつて居る。アームストロング氏は頻に新聞を擴げて、面白さうな所を大きな聲で讀んで家族に聞かせて居る。

樂しい混雜の間で、アームストロング夫人は、お茶を注いだり、菓子を廻し度り、器を運んだりして居る、それは彼女が何年といふ長い間、日に三度づゝ、雨の日も風の日も、夏も冬も、始終して來た事だつた。アームストロング氏は新聞から眼を離して「一體、母さんは何時になつたら、食べられるんだい？」

何故、娘達に食事の手傳をさせないんだ？歌と、着物と、友達の事より他にや何にも頭に入つて居ないらしいよ、家の娘達は。お前一人で、骨折つて、それぢや餘り、勞働が不平均ぢやないか。」

「まあ〳〵可うござんすよ若い時は二度とはないんですから、思ひつきり遊ばせてやりませうよ。もう少し取れば、自然に落附きは出來て來ます。私達だつて、あの位の時分には、あんなだつたんです

から。」

「俺はあんなぢやなかつたよ。お前だつて、何ぼ若い時でも、俺が覺えて居る所ぢや、あんなに浮ついては居なかつた。

外出するのは構はないけれど、もう少し自分達の仕事は自分達で片附けるやうにさせなけりやいかんこれぢやまるで、母親は子供の奴隷のやうだもの。」

夫婦の者は子供達のかたまつて居る所へ眼をやつた。ウォルターは靜かに、ピアノの鍵盤の上に指を走らせて居た。ラウラとベルサは何か曲目の事で言ひ爭つて居るらしかつた。ジャックは二人の娘の傍に近く寄つて、譜を調べて居るやうな振をしながら何かベルサの髮の毛に惡戲をして居た。

ヂックは散々に騷いだバイオリンの絲が自分のコートのかくしから出て來たので、それで頻にバイオリンの調子を直して居る。「ベーブ」は床の上にピタリと座り込んで、兩腕に猫と犬を抱へて、兩方の鼻を突き附けさせては面白がつて居た。

それは實に美しい繪であつた。父母としては、何にも替へがたい誇としても好い子供達の群であつたアームストロング夫人は、未だ半分も食べぬ食事を前にして、其の一團の樣子を飽かず眺入つた。

それでありながら、何故か不思議な淋しさが、何處かしらから夫人の胸の中に込み上げて來た。

成程、此處の家族は誠に、心持の好い、睦まじい家族ではあつたが、それでも、毎日毎日、何事もないやうに、家の中を整理して行くのは、決して樂な仕事ではなかつた。其の上に、年百年中、明けても暮れても、家に留守居をして居るのは、時には、かなり苦しい事でもあつた。洗濯から、食事の後片附それも大勢の人の出入りのある百姓家であつて見れば、中々食事の後片附も馬鹿には出來ない仕事だつた。と言つて、ベルサとラウラに、留守番をさせる氣は母親には微塵もなかつた。

二人の姉妹はいつでも一緒で、決して離す事は出來なかつたし、音樂に堪能であつたから、あつちか

らもこつちからも、何かの催のある度毎にいつも引張り凧であつた。男の子供達に家の仕事をしろと言ふのは、牛が瀬戸物屋の店へ連れて來たも同然で、そんな事は母親の思ひも及ばぬ事だつた。

夫が家に歸つて來た時に、少しは手傳つて貰へばいゝのかも知れぬとは思ひながら、何故か、それも言ひ出せなかつた。夫の方では何時見ても妻は洗濯か料理か、火熨斗か、裁縫をして居るので、今ではすつかりそれに馴れて仕舞つて、妻が勞れて居るなどゝは思ひ附かなくなつて居つた。

妻の心には唯三十分でいゝ、ほんの半時間、何も仕事の無いといふ時が欲しい、そうしたらどんなにか樂々とする事だらうといふ望が絶えずあつたのだが、そんな事を思ふ度に、彼女はこんなに優しい夫立派な子供を持ちながら、そんな不滿を持つと、我と我が心を叱つて居たのだつた。

今夜もそんなやうな考が心に浮んで來るのを、彼女は推しのけて、食卓から立ち上つた。

「さあ、ベーブちやんや、母さんがお化粧をして上げませうよ。猫を置いていらつしやい。

ラウラ達も、早く着物を着替へないと後れるよ。ジヤックとウォルターのシヤツはベッドの上に擴げてあるよ。それから、濟みませんが、今晩は乳を搾つていつて下さいませんか、何だか、私は妙に勞れてますから。」とこれは夫に向つて言つてから、「ベーブ」を引寄せた。

「さあ、もう一度、後で、諳誦を聞いて上げますよ「私のお人形」つて、題をはつきり言はなけりや駄目ですよ。」

末娘の黄金色の髪は美しく櫛けづられて可愛らした、パアテイ、ドレッスに着替へた「ベーブちやん」は母親の膝に抱かつて、「私のお人形」をおさらひした。(つゞく)

本部會計報告　御寄附金

金貳拾圓九拾四錢也	ミス、マシユー
金壹百四圓也	ミス、マスタースクール
金拾圓也（負擔金六月分）	横濱女子青年會
金壹百圓也（同上）	東京女子青年會
金九圓也（同上）	東洋英和女學校青年會
金拾五圓也（同上）	金城女學校青年會
金壹圓也（維持費六月分御拂込）	加藤高子氏
金貳圓也（同上六、七月分）	三輪田眞子氏

特別會計報告（指定獻金）

金參拾圓也（修養會の爲御寄附）	捜眞女學校青年會
金貳拾圓也（同上）	伺綱女學校青年會
金拾五圓也（同上）	土井照子氏
金五圓也（同上）	（服部キサ氏 高橋よし子氏）
金貳拾圓也（同上）	藤島杜代子氏
金四拾圓也（同上）	修養會賣店利益
金八拾參圓也（ロシヤ飢饉救濟の爲）	修養會獻金

博覽會會計報告

六月二十一日より七月二十日までに御寄附金五五、五〇あり先月に於て殘額僅かに三六、六三合計九二、一三なり、

支出内譯

保險金	一五、〇〇
クラブ費（女看守の慰勞會）	七一、四八
設備費	五、六五
計	九二、一三

差引殘金皆無なり然れ共今月末には俸給其他諸拂の爲約七百圓を要すべく目下再募金中なり。

神戸基督教女子青年會報告

△六月廿七日、年中行事の一つである幹部委員夫妻相互の意志の疏通を計る爲めの晩餐會を開きましたが來會せられましたのは比較的少數で御座りましたが歡を盡しと、文字通りの會合でなく、柔かみを以つて和氣靄々の裡に。食後、磯部夫人のピアノ獨彈があり、合唱の二ッ三ッも轉び出ました。

△七月一日、御殿場夏季修養會へ五倶樂部から各代表者を送る爲め特志家によつて音樂會を開催致しました。暑い時でもあり、可也な遲疑も致しましたれど、男子青年會では講堂をお安くお貸し下さいまして、非常に便宜を與へて下さいました。合憎な雨にも係らず豫想以上の好結果を得ました。

△七月六日、午後四時より男子青年會職員九名、御來館、大谷幹事司會にて、奥村主事の祈禱に始まり温かき友情の發露を見ました。註、前月より毎月一回同じ主義の下に立つ男女青年會は相結束し、援助して行く必要があると感ぜられ、相會して祈禱し、讃美し、事業の報告、考究を致す事に致して御座います。この日男女相提携してこれより當らうとする事業の畫策に談も進みましたが具體的決定を見ずに散會致しました。

△七月八日、午後三時より各倶樂部連合にて、終業式に兼ね親睦會を催しました面白い餘興にお腹を抱へて五時頃散會。雨の粛々と降る中を愛する姉妹方の姿が、次第〳〵にかき消された時、云ひ樣なき寂しい感を抱きました。此等の方達の上に神の豐かな御惠みの下るやう祈らないではゐられません。

△最後に私の方で此度、振替口座に加入致しました番號は大阪六三七三五で御座います御記憶の程を願ひます。

さらば、天が下諸姉よ、御健勝を祈つて止みません。

大阪基督教女子青年會報告

一、**年會**　既に御報申上ました通り六月十七日午後二時開會、新らたに左記諸姉が幹部委員となられました。廣岡郁子姉、ミスパワート、中路ちか子姉、の三名

役員撰擧の結果、會長淺井泰子夫人、副會長坂部富子夫人、會計松井つた子夫人留任、安東庸子夫人新らたに書記に當選。

一、**クラブ**　古屋女子英學塾クラブ（火午後）鈴木姉指導梅田高田高女高等科クラブ（金午後）高畠姉指導元氣よく御集ひでしたが休暇中は休會。古屋クラブでは六月十三日午後梅田クラブの二十名を招き（併せて三十名）靈性向上のため淺井治子先生の御話を伺ひました。（以下次號）

梅花女學校女子青年會

私共の青年會は微々たるものでございますが神の御恵によつて大きくなる事を信じ又祈り勉めて居ります。

左記の通りの順序に毎週金曜日午後二時から開催して居ります。

一、講演會
二、仕事會(讃美歌練習會)
三、聖書研究會
四、辯論會(祈禱會)

二と四の二つ省いてございますのは代る〴〵にいたします。

講演會には芹野牧師、西野貞子女史、學校内の先生を御招きして有益な御話を承りました。讃美歌練習はミス、カルテスの御指導の下に習つて居ります。

傳道部の方々は熱心に日曜學校のために働いて下さいます。五月廿六廿七兩日は我校のバザーでしたので青年會でも二三回を仕事會にいたしましたお什事をしそれを寄附しました。天の惠、地の利、人の和が相合つて誠に盛況でございまして純利益六千圓餘に達しました。來學期は私共の青年會の主催でよい會を開き學校内の先生生徒方によつて募金し樣と計畫して居ります。私共は小さい集りでございますがよりよくし小さくても世の光、地の鹽とならふと勵んで居ります。

プール女學校女子青年會報告

私等新しく役員に選ばれました經驗の淺い者達が青年會の働きにたづさはつてから早や一學期も過ぎてしまひました。眞に弱い私達で御座いますけれど大きな幹に連なつて居る事を思つて何時も働んでまいりました。祈りつゝ……。

祈禱部員司會のもとに毎月一度最初の月曜に催される祈禱會に出席される姉妹方も學期の初めは多勢ですが、どうしても試驗の多くなる學期末には何時

しか出席される方も少なくなつてまいります。然しどんなに少數であつても熱心に心を合せて祈り求めます時には必ず神樣は私達の願ひを聞いて下さる事と信じて居ます。誘導部は新入の小さい妹達の爲に毎金曜に「小さい集り」を催して宗教的な話をし、又讃美歌を教へたりして居ます。仕事部では新らしい試みとして花壇を設け美しい草花を栽培してその花を病める姉妹を訪ふ時の慰としたり、又會員に販賣しようと思ひまして先づ菊の苗を植えて見ました。初め二三回は失敗するかも知れませんが後の人々の爲、趣味ある仕事だと思つて居ます、登山會も社交部主催のもとに三笠山に行き先生も四五人いらつして下さいまして近頃珍らしい賑ひで御座いました。又ある先生のお導きにより奈良高師を參觀する等他の方面にも得る所が多く御座いました。大阪市部の有職婦人寄宿舍建築の爲や朝鮮婦人救濟會の爲等の寄附金を募る爲に活動寫眞會も致しました。博愛社部も今年から各級に廻す慈善箱を一人々々責任を以つて廻す樣に致しましたので今度は何時もより良い成績だと思つて居ます。少し困つて居ますのは雜誌部で三年生位の方には「青年界」はむづかしい樣で御座いますので今の所役員は是非買ふ事に致して、下級生には賣らない樣な有樣になつてゐますでこの爲には何かいゝ方法をと祈つて居ます。何卒皆樣も小さい私達の爲にお祈り下さいませ。

終りに會の諸先生初め皆樣の御健在を祈ります。

横濱基督教女子青年會報告

教育部にては文學會を七月一日午後四時より會長室原夫人司會のもとに開きました可愛らしい小學科の野村文子さんの「ピンク」と題したピースのピアノの獨奏、吉川きみ子さんの英語暗誦をはじめ各組の英語暗誦合唱など來會者を滿足させました。幹事の四部合唱の後修業證書の授與、會長のおすゝめなどあつて閉會直ちに西教育部幹事の送別會がありました始めから一年といふお約束で御來濱なさいまし

たとはいへ一年は余りにあはたゞしく去つたので皆おわかれを惜しみました。當日は裁縫科日本習字科編物科料理科タイプライター科などの各科の出品をならべ來會者の御覧に供しました。

クラブ　ルイズクラブでは工女を修養會に送るため近日來時機を得ては花賣りレモンティーなどから意外の利益を得ました。オーヒールークラブも同上の目的からレコード音樂會を開きました、支部クラブもそのため十圓の寄附をしました同クラブでは永らく會長であつた温さんが近く南洋へ行かれるといふので送別會を開きました。當日は雨の日の事とて殊更に淋しさを感じました美しいそして立派な温さんの行く手をお祈りしてやみません。周さんが後任としてたゝれました、周さんはフエリス出身の秀才です、夫人クラブでは夏休み前最後の集會を山手町五十五番地に開き婦人子供の親睦會にいたしましたメンデルソン夫人の有益なおすゝめがありました。この山手にいつも親切に人のためなら何でもして下さるミセスジヨルダンと河村松子さんのお出でになる事を感謝します、横濱女子青年會はたゞ本町通りの會館ばかりではありませんこの五十五番も横濱女子青年會の大切な一部です、そしてそこに此の美しいお二人の働きを忘れたくありません。

七月八日、日曜日の午後ペイン夫人メンデルソン夫人その他の有志の方々の御心から近日來當横濱に滯泊のアメリカ軍艦乘込み員の招待を五十五番でいたしました、幹事の數名とルイズクラブの數名がお手傳ひにまゐり遠來の客に大滿足を與へました服部きさ子さんのピアノの獨奏振りには音樂部員の艦員さへ驚きの體でした、かくして日本の上流の令孃方にあつた事の幸ひさを皆喜ばれました。

當會より修養會に出席しましたのはルイズクラブより四名商工部より二名有職婦人二名幹事三名で御座います。出席者の感想など追つてお知らせ致します。

附。（紙數の都合上、宮城、捜眞、京都の面白い御報告は次號に致します）

平和博休憩所感拔萃（三）

○

此の痛き足何處かへかベンチを取らんと眼を見張つて眺むれば、あゝ神の使よ此の涼しき休所、實際心行くばかり休ませて頂きました。する内に厚きもてなしのお茶心行ばかり味わせて頂き何ともお禮の申し樣も御座いません有難ふ存じました。

○

私は今非常に勞れてもう一歩も歩く事すら出來ません。友と休みながら參りましたがフト目についたのはこちらですまあ何といふ私に慰安を與へて下さつた事でせう……デスクにもたれながら今迄の勞れをすつかり忘れて今はピン／＼していざ歸らうとする處へ御親切にお茶をお入れ下さて何と御禮を申し上げませう……面白き御本を澤山讀ませて頂いた上有難ふ存じました。

○

疲勞をやすめ
　元氣を恢復するの待遇を
與へられたる私の兒童
　學校の幼き數へ子等の心に
なつて御禮を申上ます。

私たちは今日先生と
　博覽會見物に來ました
目新しい風物にあつても
疲れと氣の乏しくなつた後には
それ等は皆――心にとまりません
　その苦しい時に
此のうれしい、嬉しい休みを與へられ
　た事を御禮申上ます
私たちの心の奥にも
　此の時
人の爲といふ、めぐみが出ました
　世の爲人の爲に努力する事
　　報ゆる事が
私たちはまだ／＼たりない
　自己の爲ではない
　　人の爲に
どうして、此の心がたりないか知ら
　生物の自己存續上から考へると
　　自己の爲
　　　自己の滿足の爲といふ事
――大切でせう
然しその時代は過ぎたにも拘らず
　私たちは
世間の中から
　多くさうした事ばかり
　　さうした境遇ばかりを
見たり聞いたりします
　これ一面から考へると
先人が未だ努力數導がたりないのかしら

と私は兒童を敎へる身分からして
　　自分の心に考へ及びます
嗚呼
　　敎へる事の未だたらざるよ
　　導く事の未だ足らざるよ
然も又
　　其の己れの修養の足らざる事を
　　流汗して恥ぢ入る次第です
これで人の子を敎へる資格があるかしら
　　これて人に導を與へる心があるかしら
私はこう休んだ刹那に思ひました
　　さうして休みと元氣とを與へられた
神に感謝の意を表します、兒童等にかわりて

〇

私の子供三人召連れ大にくたびれまして御座いますがこの休憩所で誠に心安く休ませていたゞいた事を深く感謝します併せて御親切な御接待ぶりに深く御禮申上ます、小石川白山

〇

派手でないそれでゐてどこかおつとりした感じそれがこの室に入つて最初に殆ど直覺的に感じられたのでした。初め自分はおど〳〵してエントランスを入りました。といふのはこの企てが誰によつてなされてゐるか知らず從つていづれ營利的に單に客を引く爲になされたものへと思つたのです。これは私の心のヒガミからかも知れません、そしてそれは悲しい事です。"To the pure all things are pure." の反對の意味も亦眞理でなければなりませんから。今の世のものみなは資本主義のスレイウアリイになつてゐる事は否定出來ません。これは確かに不合理でなければなりません、若し人々が本當に隣人の愛に生きる事が出來たらこの不合理は失せてしまふのでせう。唯敵を愛するといふ事が出來れば人々のすべては平和に生きてゆかれるのです、「敵を愛す事」それがなんで出來ないのでせう。人々は味方をすら憎んで、しかも其の自己の神への冒瀆を意識せずにゐます。かうしてをつたら地上の樂園は遂に來ないかも知れません、然し本當に神に信仰に生き地上の醜きものゝうちに少なくとも輝いてゐる榮光　思ふ時地上のものは未だ〳〵呪はれてはゐないと思つてます「いと小さき者よ、されど汝の生命は永遠なり。」すべてのプロレターリヤは疲れ切つてゐます。然しその心の貧しき人々をいと高き者はつきない慈愛をもつて潤してゐるのです。この雜沓したそして營利的にのみ存在していやが上にもプロレターリヤを虐げてゐるこの博覽會の休み場所の中にこのＹＷＣＡのやさしい人々によつて一つの樂園が存在してゐる事は美しい事でなければなりません。榮光に生きる若き女人達よ、貴女達の上に神のめぐみの深からん事を。「おつとりとした親しみのある感じ。」それは現代の疲れ切つたなべての人の魂に限りなく求められてゐます、そしてそれは得難いしかしそれが殆んど期せずして得られた場合其の喜びは亦偉大です。私はプロレターリヤの皆に代つて神のために働いていらつしやる人々の誰人にでも感謝を捧げます。

25 th June 1612 A factory laborer

〇

神の下にこうして常に努力、それは眞摯な心の熱情を以たるを以

て生くる道の最大基調とせられてをられる皆樣の前に立つた時に私は云ふにいはれぬ尊い力に感動致しました。凡て自己の爲に働くといふことは誰にでも出來ることです。然し乍ら自己を考ずに或は自己の爲で結局はあるでせうけれ共――只淸き神の進に勉めることは人間至上の尊い仕事です。願はくは心から只形式だけに止まらずに諸子の向ふ道に進まれんことを乞ふものでめります。

○

何といふおつとりとして親しみのある休憩所でしよう、ましてやこゝに居られる諸嬢方が其親切なる御接待ぶり自己本位の今の世には餘りに尊き偉大さで何となく涙ぐましいやうな氣が致します。然し世の人の中には此の女子靑年會の實質を未だ知らずにゐる人が澤山あります、諸嬢方此の上ともに淸き道に努力なし下さるやう皆樣方の上に神のめぐみの深からん事を。麹町富士見町　生

○

廣い室にたゞやうふホワイトリリーの高雅な香――銀飾ふる如き讃美歌の音も調和よく若い乙女の淸きハートを表現してゐます。ポカ〳〵とあつい太陽の照りつく昨今にもお勞れなく御誠意を持つてお世話下さる先生方初め靑年會の皆々樣無智な私は厚く〳〵御禮申上げます。一日の疲れを休ませて頂きまして有益なお話を聞かせて頂く事が私等にとつては唯一の心の慰安で御座います。何といふ幸福な子で御座いませう。過日木曜日に井上先生、河井先生の數多の女性の爲にお解き下さつたお話私は初めから終迄感激の涙を持つて承りました、私等に近寄らんとする種々の誘惑の魔の手も……異つた方面に芽さんとする心の芽も偉大な神樣のお力にてつみ取る事が出來ます此の世の中へ美しい理想と現實を合理せしむるためにより強く淸く生る事を勉めます是れも女子靑年會の皆々樣御盡力と蔭乍ら感謝の涙をそゝいで居ります。一女看守より

○

感謝の餘りつたなき筆にて

あたかも慈母の家の心地致し心おきなく休ませて戴きました。私共の樣な子持は外へ出さへすれば苦しみに出る樣なもので手替りでもなければ途中にて子供のむつきた替へる事も出來ません。とかく惡評のある此の博覽會にかゝる尊き御くわだてある事を深く感謝致します。大井にて北川

○

感謝致します。

私は本日會社の休みを利用し博覽會に參りました、第二會場に入りました北海道、朝鮮、臺灣、各館を細かに見て參りまして非常に足が勞れました折り惡しく雨が降て參りましたが御飯を食べたばかりですが足が勞れるやうでなんとなく腰でも掛けて休みたくなりました、外國館の先當に無料休憩所――記してありました、兎に角中流以下のお方は成可くお金を費はない樣にするのが本當であります、私もその側　ありますから喜んで休まして戴きました直に奥さんがお茶を下さいましたから足を休め喉をしめーて自分に滿足致しました、その内に一人の老婆が伺つて居りましたから私が招きました老婆曰くお錢を取られますか否取られませんと答へました。老婆は喜んで腰を掛けました、例に依つてお孃さんがお茶を下さいましたから喜んで足の勞れも直り又お茶を戴き氣持宜しくなりましたと申しましたから、私は此れは基督敎會慈善休憩所でありますと申したら誠に有難いと申して喜んで歸へりました、日暮里町の貧人生

○

北海道、滿洲、朝鮮、臺灣を經て天國に這入つた樣です。

神田ＣＭ

○

私は妻と子供二人を連れて參りました非常に疲れて此前を通り掛りますと御婦人の方は御遠慮なくお休みなさいとありますので妻と子供を休ませて頂きますと親切な接待の方は御這り下さいとの事に此室に入らせて貰ひ茶の馳走になりゆる〱と休ませて頂きましたので非常に嬉しく有難い事をしみ〲思ひました。有難く感謝致します。巣鴨

○

何の氣なしにこゝを通りました。氣持のよい誠に好い室でございました、熱いお茶を頂いた時化粧室へ這入つた時、女子青年會でおやりになつてゐらつしやる事を知りました、私は何ともいはれないある心のショックを感じました。宗教といふ事には餘りに冷淡な私であつた事を恥ぢます。私は女子青年會の方々に深い感謝と社會的事業に益々御努力下さる事をお願ひ致します何といふ氣持の好いでございませう。博覧會を見物に參り初めてこゝに私の大きな喜びに打つかりました。

○

私は老人を連れて此博覧會見物に疲れに疲れてこゝまで參りますと、御自由にお休み下さいとの事に、一寸休ませて頂きましたこのすゞしい心持のよい室でお茶を頂いた時の嬉しさ云ひがたく思ひました深く深く感謝致します、

お料理

坂本花代

ミートモース(Meat Moosse)

挽き肉を煮て味をつけホワイトソースを濃く作りし中に入れてよく二重鍋でよく溫め猶加減をよく見て器に水を通し底に罐詰の松茸など入れし上に流しこみ數時間冷したる後頂く、肉は牛肉に限らず鷄肉魚肉を用ひてよろしかにゑび鮫など特によろし。

ホワイトソースの分量

バタ　大匙　二杯
メリケン粉　大匙　六杯―七杯
牛乳又は肉の汁　コップ　一杯
鹽　茶匙　半分

バタを溶きメリケン粉鹽を加へ牛乳か肉の汁を徐々に加へよへ混ぜ二重鍋にてトロ〱になるまで煮る。

此のミートモースにはボイルドドレッシングをかけるとよろし、お味をよくつけ置けばドレッシングなしにてもよろし。

ロシヤサラドドレッシング

鹽　茶匙　半分
胡椒　茶匙　四分の一
酢　大匙　四杯

オリーブ油　大匙　四杯
堅くゆでたる卵を　一個
　小さくきざみて
煮たビーツを小くきざみて　大匙　二杯
小さくきざみたる玉葱　大匙　一杯
煮た人參を小さくきざみて　大匙　一杯

鹽・胡椒・酢・オリーブ油とをまぜてフレンチドレッシングを作りそれに卵以下全部を加ふ

此のロシヤサラドドレッシングを馬鈴薯さやいんげんを小くきざみて煮たもの又は胡瓜を小くきざみたのにかけて出す

野菜の煮方(さやいんげん)

豌豆いけげん豆などさやつきを青く煮るには鹽水を作り鹽水四合に對して茶匙半分のソーダを加ふ

さやいんげんを斜に細くきざみ鹽水の沸騰せる時入れソーダを加へ柔くなりし時水氣を切りサラドに用ひてもよくフライ鍋にバタを滲してゐためてもよろし。

桃のプディング

メリケン粉　コップ一杯
鹽　茶匙　半分
ベーキングパウダー　大匙　一杯
桃小くきざみて　コップ一杯
牛乳　コップ三分の一

以上の材料をよくまぜバターをしきたる器に入れ蒸籠にて蒸す
桃三個を小くきざみてお湯コップ半分砂糖大匙五杯鹽少量とを混ぜ十分間煮プヂングにかけて出す。

フルートパンチ

砂糖　コップ四杯
水　コップ二杯
水と砂糖とを沸騰させ砂糖汁を作り
レモン汁　コップ四分の一
みかんの汁　コップ四分の一
水蜜桃を小さくきり　コップ半分
天津水蜜桃二個の皮をとり水をたつぷり入れて煮たもの

以上の四色の上に砂糖汁をかけ二三時間其まゝにして置き裏漉しにかけ適宜に水を加へて頂く右の量は凡十五人位なり。

電報一束

□ドクター、アキスリングは修養會の閉會に際しピリピ書四章九節「汝等我より學びし所受しところ、聞きしところ、見し所を皆おこなへ然らば平安の神汝等と偕ならん」との電報を賜はる。

□ミスベリー修養會閉會に當り神の祝福汝等の上にゆたかにあらん事をといふ意の電報を送らる。

□釜屋綾子姉、昨年修養會の節御熱心にお助け下されし姉は本年は不幸御病氣にて御入院中との事病院から修養會　盛會を祈るとの電報を賜はる。

□横澤つぎ子姉は御令弟御病氣の爲仙臺に歸らる修養會に同姉のあらざりしは遺憾なりき御心つくしの祝電を寄せらる。

□椎名しづ姉　同姉よりも御親切なる祝電を寄せらる。

□堀順子、青山ひで、藤本あや子の諸姉より修養會の盛會を祈り諸姉妹によろしくとの御手紙を受く。

編輯室より

山の上で過した美しい一週間、そこで姉妹方が得られた貴い賜、それは林下の人に必ずや分けらるゝ事でせう。燈火は點ぜられたそしてそれが四方に散つて更に火を點して行く心强さを信じて私は今感謝に充ちてゐます。修養會に出席された姉妹方!! 印象なり、感激なり、感想なりどし〳〵御送り下さい、それによつてどんなにか私達は又勵まされる事でせう。

本誌愛讀者の皆様!! 暑い眞夏が參りました何卒御身體を御大切にして下さいそして暑さにお負けにならないやうに深緑の木蔭が招いてゐます、赤裸の自分を投出して、眞の自らに生きてゆく心强さを實験するによい時八月秋の鋭氣をうみ出す準備の此月をば皆様がよくお用ひ遊す樣そして御幸福であますやう祈りつゝ（小文）

備考

一御注文は一切前金に願ひます
一御送金は振替でお拂込み下さる事が便利で安全です。但手數料一錢をお加へ下さい。郵便切手代用は一割增
振替東京二三七二三番

定價郵税共

	一部	一年前金
内地	金貳拾錢	貳圓
海外	金貳拾四錢	金貳圓五拾錢

廣告料

一行	半頁	四分一頁	全頁
金五拾錢	九圓	金五圓	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正十一年七月廿八日印刷納本
大正十一年八月一日發行

神田區錦町一丁目十六番地
發行兼編輯人　河井道子

東京市芝區櫻田和泉町七番地
印刷人　前川吉治郎

印刷所　右同所　三成舍

神田區錦町一丁目十六番地
發行所　日本基督教女子青年會
電話神田三五五二番
振替口座東京二三七二三番

West Virginia Field, Miss Rosalie Venable, Miss Ann Seesholtz, and Miss Vera Barger from China.

YOKOHAMA

The Educational Department closed its work on July 1st with a very creditable program and exhibition of work accomplished. Certificates were awarded to 34 girls who had completed work in the English Classes. It was also the occasion of a farewell meeting for Nishi San who has been our Educational Srectory. The best wishes of the Association go with her to her new field of work.

Twelve delegates from the Yokohama Association attended the Summer Conference at Gotemba this year and more than any previous year the various departments of the Association were represented. We were particularly happy to have one delegatee from the Fuji Boseki Spinning Factory and one from the Government Silk Inspection Company. Mrs Yamaguchi and Mrs Shimidzu, Board Members whose homes are at Kamakura were also in attendance. The first gift toward the fund used for paying the expenses of three of the delegates came from Komora San one of the Association members who brought to us half of her first month's salary in a bnsines position. Mrs. Sneyd added ten yen to the fund and the Wohelo Club gave the returns from a Victrola Concert and the Louise Club sold flowers.

One of the most delightful occasions at the Residence for Foreign Girls and Women at 55 Bluff was the afternoon when 200 of the men from the U. S. Steamship Henderson, were entertained there. The beautiful lawn and the wide parlors and verandahs were never more fully apprecident than they were then. American women and Japanese girls under the chairmanship of Mrs. Payne assisted in making the afternoon a decided success in every way.

Yokozawa San returned to her home in Sendai on July 11th, because of the serious illnees of her brother. The sympathy of the Association has been with her in these anxious days.

delivered to the Y.W.C.A. rather promptly, and since then the sales of them to the emigrants who eagerly bought in large quantities show how real is the desire for spiritual life on the part of these country people, from co s vative Buddhist towns, who are going out into the great world of internationtl relationships.

On July 1st a concert was given by all the clubs cooperating together to raise the conference delegates' fund. It was very successful, and the pleasure of the audience even on a hot evening in the performances of the rather large number of amateur artists was rewarding in itself. All the clubs worked hard at selling tickets, and Miss Chappell at providing the program.

On July 8th was held the first Club Rally, of all the girls' clubs of the Kobe Y.W.C.A. morning, afternoon, and evening group. As it is difficult for all these people to meet together at the same time the attendance was not large, but the program excellent. Miss Onomi, gave an inspiring talk, there was general singing of a good many favorite songs, and an English play, "Evelina" in whieh some fine acting was done.

On July 11th the delegates departed to the summer conference one from each of the morning and evening clubs, besides Miss Onomi, Miss Watanabe, Miss Yamamoto, (who is to be conference nurse) and Miss McGregor and Miss Chappell. After the conference is over several of the party are planning to climb Fuji.

Those left behind are continuing their work. Miss Ito is in charge of the office, and is receiving the memberships which continue to be collected by the various voluntary collectors. Miss Aizawa, whose industrial work has taken an unexpected turn in that it is developing among the Daimaru Store girls, and the errand girls of the Suzuki Company, is busy with the numbers of these little girls who want to find in the Y. W. C. A. a social centre for Sunday afternoons, and a chance to learn English and Hymn-singing.

The second joint staff-meeting of the Y.M.C.A. and Y.W.C.A. of Kobe was held on the afternoon of June 6th, and was marked by a very earnest prayer spirit, and the discussion of possible forms of cooperative activity to bigin in the fall.

Among the guests whose presence has been enjoyed this month have been Mrs. Chaberlin, formerly excutive serectary of the Ohio and

to the girls. We divided them into two groups and had games and folk dancing. Miss Hosoya and Miss Marsh assisted with the entertainment. For the third party seventy girls, came, Miss Okazaki gave a short talk, and with the help of Miss McKinnon and Miss Yamazoe we had a very pleasant social time after playing games. At the last party about 60 girls came, Miss Kawai gave them a short talk, and the games under the direction of Miss Marsh and Mrs. Suzuki were a great success. We feel that these parties have done much toward interesting the girls in the work of the Young Women's Christian Association, and we hope to see many of them again. Many of the girls personaly expressed their appreciation of the work that has been done for then, and said how interested they were in Christian and Young Women's Christian Association work. One of the girls said it was the first time she had ever heard such a talk, and it made her realize that she could take a place in the business world and could stand on the same footing as other girls whom she had always thought were very far above her. Several other girls were very much inspired and expressed their wish to go to Church after the close of the exposition.

The noon talks were very helpful to the girls. Every day about five girls came and a short spiritual talk was given, after which ice cream was served, and then we had a few minutes set aside for the singing was going on, many of the people came in to listen to us, and one woman wrote in our Guest Book, that she had heard a song which she had known as a child and it had brought her again into her Spiritual home.

The girls were very anxious to get printed Hymns and Bibles, and these we sold to them for very little.

We miss Miss Armstrong very much and wish she were here.

KOBE

After many months of anticipation, Miss Taylor's promised visit to the Kobe secretrries came at last on June 20 and 21– just a few hours in all, but long enough to permit of several important talks, concerning which there will be future developments.

While Rev. Paul Kanamori, the great evangelist, was in Kobe in June, request was made and granted by him to give hundreds of his pamphlets "How to enter the Life of Faith" to the emigrants, for five sen a copy, instead of the usual seventeen sen. The pamphlets were

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume 19 August 1922 Number 8.

NATIONAL

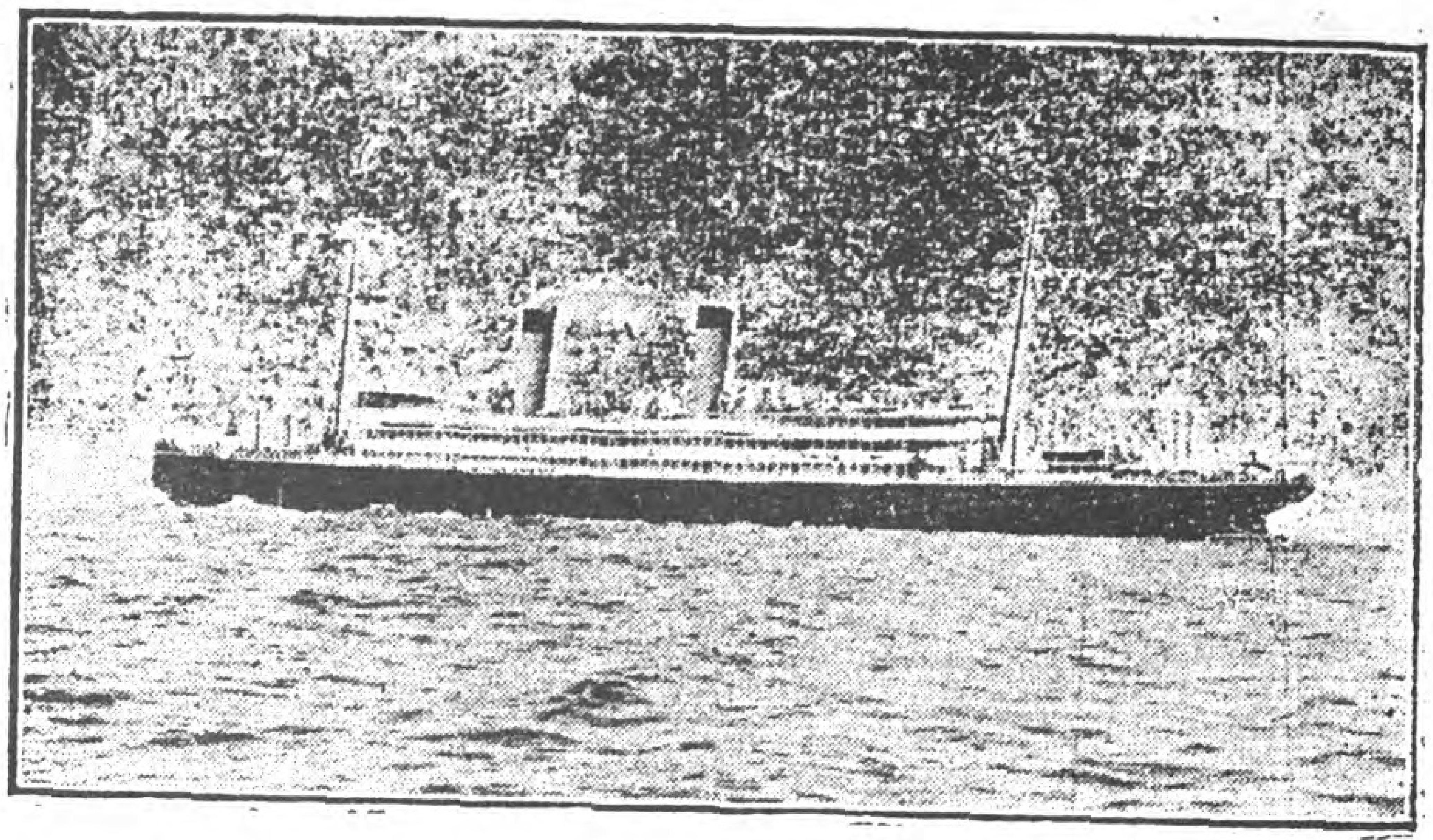
For a week of beautiful clear weather with Fuji majestic and clear above the hills around the camp grounds, the Y.W.C.A. held its seventeenth annual summer conference with its 168 delegates of students and business and industrial girls. From the first evening when Miss Kawai opened the conference there was great enthusiasm and a deep sense of fellowship as the girls began to seek and think and sing together. With the seriousness broken by good times,-stunts, field meet games, and much singing and good-natured competion between schools and city associations, there was in the coference a steady, sure sense of well balanced days. Two excellent talks on modern social problems in the light of Christianity, one on the Washington conference, a talk by Mrs. Ibuka, Chairman of the National Committee showing the longing of the National Committee that the girls of the association might express the finest and hignest type of womanliness and a great number of inspiring religious messages through lectures, in addition to the regular daily Bible classes and the constant and loving spirit of Miss Kawai made a combination that filled the girls brimming full of something that the they long to translate to others as they go back to their homes.

The promise of our very own conference grounds for next summer has aroused school and group desire to give all the money and time possible to get it ready.

The last night's ceremony was out-of-doors with the girls formed in a great circle of lighted candles- a symbol of their desire that the light of the joy of Christianity should reach around world.

We have been doing some very interesting Girls Work at the Ueno Exposition. Four big parties were given which proved to be a great success, and our only trouble was that we did not have room to accomodate all the girls who wished to come to us. At the first party, we had about two hundred girls. We did not have enough seats for them and had hard work finding extra benches. Supper was served at six o'clock and after, very helpful and interesting talkes were given by Dr. Inoue and Miss Krwai. At our next party we invited only one hundred gir's which we felt were about as many as we could care for. Supper was served as before and Miss Kawai gave a very helpful talk

東洋汽船株式會社



本社　東京市麹町區永樂町一丁目一番地（電話 丸ノ内 一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三番）

營業所　横濱市山下町五番（電話 本局 四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三、四四〇四番）

出張所　神戸市海岸通七番地。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チヤイナ、インシユランス。ビルヂング。マニラ、チヤコビルヂング。桑港、マーケット街六五二、マーチヤンツ、ナショナル、バンク、ビルヂング。紐育、ブロードウエイ、一六五。ホノルル、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。

北米航路（桑港、布哇ホノルル、横濱、神戸、長崎、上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

大洋丸	排水量	二二、〇〇〇噸
天洋丸	同	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	二〇、〇〇〇噸
波斯丸	同	九、〇〇〇噸

さいべりや丸波斯丸は往復共大連に寄港す

大連航路の偉觀なり

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
銀洋丸	同	一六、〇〇〇噸
樂洋丸	同	一八、五〇〇噸
靜洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設備あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

女子青年界第拾九巻第八號（毎月一回一日發行）
大正十一年七月廿八日印刷納本　大正十一年八月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

一部定價二十錢